

部 報

平成22年度 No.56

北海道大学馬術部



◆ 目 次 ◆

巻頭書	井上 京	2
前主将より	山本 栄輔	4
活動報告		6
調教報告		
北彗号	出戸 裕人	17
北鳳号	江口 遼太	21
北翔号	山本 栄輔	24
北椎号	速水 秋	28
北煌号	綾部 美晴	30
北創号	出戸 裕人	33
北柊号	海道 磨里	38
北兎号	宮本 亮	42
北菓号	山本 栄輔	44
北焰号	平芳 悠人 出戸 裕人	47
入厩報告		
チェリーアドミラル号	柳田 陸仁	49
北水報告	千田 裕洋	50
卒部にあたって		51
部員紹介		56
OB名簿		61
現役部員名簿		62
編集後記		74

記憶に留めておくべきいくつかのこと 平成22年度

部長 井 上 京

平成22年9月20日、私どもが敬愛してやまなかつた斎藤善一先生がお亡くなりになりました。先生は北海道大学馬術部部長はもとより、北海道大学馬術部後援会会長、北海道乗馬連盟会長、北日本学生馬術連盟会長、弘前大学馬術部長など、広く馬術界に対して多大の貢献をなされました。ここにこれまでのご指導に深く感謝し、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

先生は昭和5年のお生まれ、昭和28年3月に馬術部を卒部されると共に北大農学部畜産学科を卒業され、その後は畜産物利用学、特に乳製品等の特性と利用に関する研究に邁進されました。昭和63年春、私が北大に戻りました折、うかつにも先生の研究室にご挨拶に伺うよりも先に、「よく戻ってきた」と声をかけに来てくださいました。その後、私が市川先生の後を受け部長になってからも、いろいろとアドバイスを下さいました。とりわけ、シーズン中にノーザンホースパークで行われる競技会には、毎回のようにJRとバスを乗り継いで足繁く会場に運んでくださり、後輩たち、そして道内の馬乗り達の騎乗ぶりをご覧になっておられたことが印象深く思い出されます。一昨年平成21年の秋に「馬術部75年史」が刊行できたのも、先生の導きがあったからこそと思います。

平成22年11月13日、大学構内のキャラ亭で先生を偲ぶ会を北大馬術部後援会及び北大馬術部の主催で行いました。会には馬術部OBのみならず、道馬連をはじめとする馬術関係者が多数参集下さいました。先生のご長男・斎藤譲一様にも出席いただき、ご家庭での先生の一面などご披露下さいました。いろいろな苦勞をなさって来られたであろうにもかかわらず、そういうことはおくびにも出さず、いつも穏やかにユーモラスにお話になる先生のことを、いつまでも記憶にとどめておきたいと思います。

平成23年3月11日、この日は決して忘れることの出来ない日となりました。この日発生した東日本大震災で、多くの方が不幸にも犠牲となり、また多くの方が今も不自由な生活を余儀なくされています。前年夏に北日本学生馬術大会でお世話になった南相馬市も、津波と原発事故の影響で大きな被害を受けています。その他にも東北各地において多くの馬関係者が大変な状況におかれています。お亡くなりになった方々に深く哀悼の意を捧げるとともに、被災された皆様のご苦勞を思い、心よりお見舞い申し上げます。一刻も早い復興を願ってやみません。

震災の混乱が続くさなかの3月21日、さらに悲しい出来事が起こりました。滝澤省

吾君が自らの手で自分の命を絶ちました。痛恨の極みです。今となっては彼の心模様を知るすべもなく、前日夜に立派に卒部生へ送った送辞が彼の最後の言葉だったのかと思うと、やりきれない思いでいっぱいです。

ちょうど地震発生時、彼は部員を率いて茨城県水戸近郊の中島トニアシュタールで合宿中でした。ご両親に伺った話では、彼は部員達を合宿先から札幌あるいはそれぞれの実家に戻すため、自宅から持ち出した車を運転し、欠乏するガソリンを気にしながらも無事全員を脱出させ、自らは実家に一泊しただけで札幌に戻ったそうです。その時はいつもと変わりなく、札幌での馬との暮らしのことを朗らかに話していたといえます。

3月26日、実家に近い神奈川県川崎市において、ご両親、お祖母様、お兄さんと妹さん、斎場に入りきれない多くの友人達に彼は見送られました。みんなの悲しみの深さを彼は知っているのだろうか、どうしてそんな早まったことを、これからどんな人生が彼を待っていたらうか、いろいろな想いが去来して止みません。冥福を祈ります。ネイチャーヒーラー（北凜）の調教報告を残さなかったのは許すから、どうか天国から馬術部を見守ってくれ。

前主将より

山本 栄 輔

昨年度の馬術部を振り返ってみると、何て無駄が多かったのだろうと思う。漠然とした固定観念に縛られたり、世間体を気にしたりと、戦略的に成り切れなかった。

学生という身分で見たら十分であったのかもしれないが、所詮井の中の蛙であるということをもっとはっきりと認識しておくべきだった。そして、井戸から飛び出すというタブーを犯すぐらいの勇気と責任感を持ち合わせていればよかった。

このような、決して全てが理想的に進んだ1年ではなかったが、その中で感じたことを少し書いてみようと思う。

馬術部を通じて一番強く痛感したことは命の重さではないかと思う。もちろん人も馬も。最終的にはしょうがないという言葉で片付けることにならざるを得ないのだが、やはり常に死と隣り合わせにあるということは感じた。それは、馬術部という部活が命を扱うものであり、その活動が馬の一生を左右するものである以上、避けて通ることはできない。突然寿命を迎えることもあるし、離厩先が見つからないこともある。

そのため、一日一日を、一鞍一鞍を大切に、明日死ぬかもしれない、明日やろうはばかやろうという気持ちで日々部活に取り組んで欲しい。

また、競技のことについても述べさせてもらおうと、学生が限られた時間と環境で馬術をやる上で重要なのは「情熱」であると思う。ただの精神論かという意見もあるだろうが、これがあるとないとでは大きく違ってくる。「情熱」は、天性のバランスにも、はみ受けという技術にも勝るもので、誰でも持つことができる大きな武器である。「情熱」があれば、不遇の時を乗り切ることも、困難に打ち勝つこともできるし、何より馬を本気にすることができる。「情熱」を持ち、真剣に馬術に取り組むことが、全日学への一番の近道だと思う。

さらに、そういった強い思いを持ち合わせている人間が少なくとも3人出てきて、北海道大学というチームで馬術競技をしてくれることを切望している。

最後に、北大馬術部をより良くするために必要なことを二つだけ挙げようと思う。一つ目は、北海道大学という特権を最大限に利用することである。地方大学としての制約を挙げようとするべきがないが、いい面もたくさんあることに気づいて欲しい。

広い馬場、能力ある馬たち、立地条件、たくさんのOB、近くにいる馬関係の方々と、これだけ恵まれている大学はなかなかないと思う。これらの利点を有効活用するにはどうすればいいかを考えて欲しい。

二つ目は、部員同士リスペクトし合えるような環境をつくることである。馬術競技では馬に乗るのは選手だけだが、決して一人で行うことは出来ない。馬付きがいて、馬の世話をする部員がいて初めて成り立つものであり、部員全員の協力が不可欠である。そのために、お互いがお互いの価値観、人間性を認め、良いチームワークを築いて欲しい。

先輩だから偉いのではなく、馬術がうまいから何をしてもいいわけではなく、自分以外の部員がいるから馬術部が成り立っているという意識で活動して欲しい。

と、上に好き勝手書いてきましたが、結局これらは私の主観であり、理想論であり、「言うは易く行うは難し」の「言う」に過ぎません。

この考え方が全てだとか、こうでなければいけないなどということは全くありません。ただ、この中から少しでも馬術部員の心に残ることがあり、活動の支えとなれば幸いです。「言う」だけでなく、自分で考え、自分で行動できることをしてくれればいいと思います。

ただ、大学に入学して馬術が出来る自分の環境に、感謝できる人間には成長して欲しいと思います。

末筆ながら、これからの北大馬術部の発展と、後輩の皆様の活躍をお祈り申し上げます。

活 動 報 告

《主将》

速 水 秋

現在北大馬術部は4年目2人、3年目7人、2年目10人、1年目21人の計40人、馬匹12頭で活動しています。大幅に部員数が増え、全員に目が届きにくい状態にもなっています。1年生が部員数の半分以上を占めるようになってきているので、馬の扱いなどで危険なことがないよう、部全体で下級生の育成にも力を入れて行きたいと思っています。これだけの部員数が確保できているので、より積極的な活動ができる1年間にしていきたいと思っています。ただ、この人数ではいずれ鞍数確保が問題となってくるので、練習馬の確保なども考えていかなければならないと思います。

成績としては、昨シーズンは北日での二走団体優勝を果たし、大きな成果を上げることができました。ですが、長年北大で活躍してきた北翔号が離厩し、その他の競技馬の高齢化も進んでいます。そのため新馬の育成が非常に重要な課題になっています。今年は北日学がノーザンホースパークで開催されるため、新馬の権利獲得のチャンスでもあります。馴致等をしっかりと、新馬世代に結果を残して欲しいと思っています。

今年は日本中に衝撃を与えた大震災がおり、北日本地区の馬術部も大きな影響を受けました。北大では春休み中でもあったため、地震の発生当時は合宿や帰省等で本州にいた部員も多かったのですが、幸いなことに全員の無事がすぐに確認されました。その際、心配して連絡をくださったり、励ましの言葉をかけて下さった皆様、ありがとうございました。東北地区の馬術部では少なからぬ被害を受けたところもあり、各大学と協力しながらこれからも活動していきたいと思っています。今年一年間後指導御鞭撻の程よろしく願いいたします。

《副将》

江 口 遼 太

馬術部の活動はまず、馬に乗る時もそれ以外でもいかに自分の役割を果たし、やるべきことをやるかということになり立っていると思います。部員の男女比が完全に半々になり、最上級生も3人と少ない現在、その各自の役割も変わってきたと感じているところです。

実際、3年目が少ないため2年目が部の運営や下級生の指導に関してより考え、目を配る必要が出てきていますし、1年目は自分で考えて行動しなければいけない場面が増えているように思います。このような変化の中で対応して各個人が役割を果たしていくことができれば、自然とより良い部活になっていくのではないのでしょうか。

そのために、副将として時には率先して役割を果たすよう行動し、時には全体に目を配ることで、自由な中にも引き締まった雰囲気のある部活を目指していきたいと思っておりますので、みなさんご指導のほどよろしく願いいたします。

《主務》

主務として厩舎、部室など施設等の管理、部活運営の事務面を行ってきました。特に七帝戦の主管校でもあり施設で修理が必要な箇所を検討してきました。具体的には、部室の畳が汚くなってしまったので学校側と相談し、直してもらい見通しが立っているところです。

馬術部は学校、OBの方々、馬術連盟、乗馬クラブ等の大きな援助により成り立っていることを常に意識し続けなければなりません。大会運営の場でも、部員一人一人が北大馬術部として恥ずかしくない行動をするよう指示していきたいと思っております。

《馬匹》

速 水 秋

馬の健康管理には馬をよく観察すること、馬の扱い方、環境整備の3つが大事であると考えます。まずは日ごろから馬をよく観察し、怪我、病気の予防に努めることが大切です。どんな小さなサインでも見逃さず、できる限りの予防策をとっていく必要があります。例えば小さな傷のひとつでもフレグモーネの原因になることがあるので、日々馬の状態をチェックして怪我に早く気づいて適切な処置を心がけるというようなことが非常に重要です。

また、馬の扱い方に関しても、自分達の馬への接し方一つで大怪我をさせてしまう可能性があることを意識しながら馬を扱っていかねばなりません。下級生はもちろん、上級生も慣れているからといっておざなりにならないよう部全体で常に注意していきたいと思っております。

最後に馬の周りの環境にも注意を払う必要があります。以前、放牧時に入り口の閉め方が甘く放馬していたという事故があり、一歩間違えれば大怪我につながるものでした。このようなことを防ぐためには、部員が見ていない時間にも馬に危険なことがないよう、放牧場に危険なものがないか、放馬止めロープは確実に張っているかなど、日々気をつけなければならないことはたくさんあります。

このような馬の安全管理についてはどんなに注意してもし過ぎることはありません。これからも安全意識を高める呼びかけを積極的に行っていきたいと思っております。

《後援会》

宮田昇太

今年は、例年どおり年間四回のコンパを主宰し、OB戦や初乗りなどを通して現役部員とOBの方々との交流を持たせていただきました。また、斎藤先生を偲ぶ会では、多くの方々のご参加をいただいたおかげで、盛大な会を執り行うことができました。馬術部全体の結束の強さに驚くばかりです。

全国に散らばる多くのOBの方々の存在が、現役部員を支えており、道大会、北日、全日など多くの試合で現役の力となっております。このようなたくさんのお力添え、誠にありがとうございます。今後とも末長く北大馬術部をよろしくお願い致します。

また、現在郵送費節約のため、メールによる連絡を進めております。住所変更やメールによるご連絡をご希望いただける方は、hokudaibajutubu@hotmail.co.jpまでご連絡下さい。お手数ではございますが、よろしくお願い致します。

《飼料》

平芳悠人

今年はハイキューブ1kg、燕麦1kg、ふすま0.3kg、パワーサプリ0.1kg、塩大さじ1杯強を朝昼夕の三回与え、乾草1.5kgを朝昼夕夜の四回与えます。また、ハイキューブはふやかして与えています。飼料は明治飼料さんから購入し、乾草は長岡さんからバイト代としていただいています。また、足りない分は山本ファームさんから購入しました。

馬の健康を考えるのはもちろん、節約にも努めて参りたいと思います。

〈会計〉

加藤亜也奈

今年は支出が収入に対し多くなってしまいました。理由として、北日学が福島県で行われたこと、大会出場馬が増え輸送回数が増えたこと、馬運車の修理費、馬頭数が増え飼料代も例年より高くなっていることなどが挙げられます。対策として部員数が増え、一人あたりの作業、バイトの負担が軽減されたなかに甘んじることなく、さらなる収入を増やしていくべきであると考えております。また、部のため経費を使わなければならないところ、削減しても問題ないところなど考慮しながら運営をしていくつもりです。このように部員の会計に対する意識を高めるとともに、今後ともOBOGの皆様にはご理解と温かいご支援のほどをどうかよろしくお願い致します。

2010年1月～12月 会計報告

収入

部費	1,385,000
モモセバイト	450,000
競馬場バイト代	1,672,107
セレクトセールバイト	180,000
神社バイト	40,000
全日本学生馬術連盟補助金	902,000
北海道大会役務費	997,206
馬輸送補助費	52,800
フレンドリー代	645,000
北海道乗馬連盟振興金	13,000
体育会強化費	276,728
道産子仮厩舎代	52,500
トレーニングセール	136,000
長岡バイト	5,000
中曽根さんバイト	20,000
農場バイト	257,050
ノーザンホースパーク撮影バイト	159,895
馬運車レンタル料	10,000
ハントバレー飼い付け	5,000
馬輸送代バイト	30,000
もちつきバイト	8,000
山川さんバイト	3,000
鷺田さんバイト	5,000
寄付	120,000
その他	67,215
計	7,492,501

支出

飼料	1,530,489
装蹄	1,488,002
交通	1,744,096
車両	1,096,313
衛生	27,354
企画	144,075
北日幹事	120,992
主務	233,672
後援会	109,832
作業	69,114
薬品	13,524
大会関係	1,119,185
馬備	26,314
馬匹	222,511
ビデオ	34,804
雑費	71,473
通信	43,171
計	7,854,453

斎藤善一先生（第九代部長）	100000
近所のおばあさん	10,000
岡崎さん	10,000

◆ 2010年度戦績 ◆ (トニ)

●第47回国立七大学総合体育大会馬術競技会(於:名古屋大学)

優勝 名古屋大学

順優勝 東北大学

第3位 北海道大学

●第38回半澤杯記念馬術大会

☆総合馬術競技(太秦杯)

				得点率	調教減点	障害減点	総減点
1位	出戸 裕人	北彗	北大(4)	53.333%	70	0	70
2位	河原田 享	ヒノデツートン	札幌競馬場	55.631%	66.554	4	70.554

☆2スターA

				得点率
1位	河原田 享	ヒノデツートン	札幌競馬場	55.632%
2位	出戸 裕人	北彗	北大(4)	53.333%

☆第2課目(市川杯)

				得点率
1位	住田 優美	ダイエDEM	酪農学園大学	62.548%
2位	久野 紗絵香	北椎	北大(2)	59.215%
3位	小堀 純一	ダイエDEM	酪農学園大学	58.038%

☆第3課目B

				得点率
1位	速水 秋	北椎	北大(3)	55.217%
2位	伊勢 亮子	ブルーマーチ	マオイホースパーク	49.956%

☆少年第3課目(斎藤杯)

				得点率
1位	佐々木 一馬	ジーティーボス	札幌少年団	62.753%
2位	舟田 亮太	ジーティーボス	札幌少年団	62.028%
3位	米谷 みさと	ベイズウォーター	札幌少年団	60.144%

☆クロスバー飛越競技

				減点
1位	岩本 浩	カゼノユクエ	函館競馬場	0
2位	菊池 矩生	ファンドリロバリー	札幌少年団	0
3位	成田 凌平	オーデンセ	札幌少年団	0
4位	宮田 昇太	北菓	北大(2)	0
5位	出戸 裕人	北煌	北大(4)	0
12位	宮本 亮	北兎	北大(H21卒)	4
13位	大森 杏奈	北創	北大(2)	6
15位	海道 磨里	北終	北大(4)	13
3反E	綾部 美晴	北煌	北大(4)	
45秒E	綾部 美晴	北煌	北大(4)	
落馬E	加藤 亜也奈	北煌	北大(2)	
落馬E	多田 健太郎	北煌	北大(2)	

☆110cmクラス(半澤杯)

				減点	J.O.減点	J.O.タイム
1位	米谷 宏介	エイトブレイヴ	札幌競馬場	0	0	28.75
2位	西原 和郎	ライジングハート	モッセRF	0	0	44.84
4位	山本 栄輔	北菓	北大(4)	4		

☆100cmクラス(河田杯)

				減点	J.O.減点	J.O.タイム
1位	舟田 亮太	エイトブレイヴ	札幌少年団	0	0	32.88
2位	西原 和郎	ライジングハート	モッセRF	0	0	33.41
3位	城 憲司	セントラルシチー	フロンティア乗馬クラブ	0	0	35.50
4位	出戸 裕人	北創	北大(4)	0	0	43.97
5位	瀧澤 省吾	北凜	北大(3)	0	1	49.22

☆90cmクラス(小池杯)				減点
1位	山川 晃平	北鳳	北大(2)	0
2位	伊藤 海	トーセンスノーマン	北大水産学部	0
3位	西原 和郎	ホワツタイム	モモセRF	0
4位	武田 佳祐	ファンドリロパリー	札幌少年団	0
5位	江口 遼太	北鳳	北大(2)	0
6位	出戸 裕人	北焔	北大(4)	0
11位	大森 杏奈	北創	北大(2)	4
12位	山本 栄輔	北兎	北大(4)	4
16位	海道 磨里	北柊	北大(4)	13

☆ジムカーナ競技				減点
1位	柳田 睦仁	北創	北大(2)	0
2位	江口 遼太	北焔	北大(2)	0
3位	中田 るり子	トルネードダンサー	RCメインフィールズ	0
4位	岡崎 遼太郎	北柊	北大(2)	0
6位	坂田 直子	北焔	北大(3)	2
棄権E	西村 英里	北凜	北大(2)	

●第24回北海道新緑馬術大会

(於:ノーザンホースパーク 5月21日~23日)

☆標準小障害A				減点	J.O.減点	J.O.タイム
1位	百瀬 利宏	ウインルーセント	モモセRF	0	0	42.12
2位	木村 俊博	駿麗	酪農学園大学	0	0	43.92
3位	若松 勇太	マキシマムプレイ	酪農学園大学	0	0	48.04
4位	野坂 拓史	テノリオ	酪農学園大学	0	4	38.84
5位	瀧澤 省吾	北凜	北大(3)	0	4	47.31
6位	菊池 広朗	フェットウデメゾン	ノーザンホースパーク	0	4	50.67
11位	出戸 裕人	北創	北大(4)	4		
棄権	出戸 裕人	北焔	北大(4)			

☆標準中障害D				減点	J.O.減点	J.O.タイム
1位	楠木 貴成	ケンデリーワシン	ノーザンファーム	0	0	43.09
2位	出戸 裕人	北彗	北大(4)	0	0	44.37
3位	山田 真澄	伯爵	帯広畜産大学	0	0	45.14
4位	畠山 彩	ダンデライオン	三木田乗馬学校	0	4	39.89
棄権	山本 栄輔	北翔	北大(4)			

☆標準小障害C part1				減点
1位	五十嵐 めぐ	ダルタニアン	ライディングヒルズ 静内	0
2位	森下 由香	ミスターブルー	北星乗馬クラブ	0
3位	日高 修平	ダルタニアン	ライディングヒルズ 静内	0
4位	米谷 宏介	ベイズウォーター	札幌競馬場	0
5位	金沢 宗禎	ティダアパアパ	ライディングチームK	0
6位	瀧澤 省吾	北兎	北大(3)	0
10位	山本 栄輔	北兎	北大(4)	4
棄権	海道 磨里	北柊	北大(4)	

☆標準小障害B part1				減点
1位	川北 泰司	サニー	ノーザンファーム	0
2位	西村 英里	北鳳	北大(2)	15
3位	川北 泰司	ルーラパン	ノーザンファーム	15
4位	江口 遼太	北鳳	北大(2)	15
5位	大森 杏奈	北創	北大(2)	16

6位	村上 恵祐	グランルージュ	北星乗馬クラブ	16
8位	柳田 睦仁	北焔	北大(2)	17
11位	山本 栄輔	北菓	北大(4)	19

☆小障害A S&H				タイム
1位	上田 未来	テノリオ	酪農学園大学	66.18
2位	百瀬 利宏	ストームファンク	モモセRF	72.65
3位	百瀬 利宏	ウインルーセント	モモセRF	72.92
4位	住田 優美	テノリオ	酪農学園大学	73.31
5位	松井 亮	タイキマーシャル	モモセRF	73.45
12位	山本 栄輔	北菓	北大(4)	85.01
2反E	瀧澤 省吾	北凜	北大(3)	
open	瀧澤 省吾	北凜	北大(3)	73.5

☆標準小障害B part1				減点
1位	川北 泰司	ルーラバン	ノーザンファーム	0
2位	瀬川 将俊	ラ・ヴァレ	ノーザンファーム	0
3位	庄子 修平	パワフルショット	ノーザンファーム	0
4位	里深 拓也	ルーラバン	ノーザンファーム	0
10位	山本 栄輔	北兔	北大(4)	0

☆標準小障害C part2				減点
1位	草野 涼	ジャスミンカラー	ノーザンファーム	0
2位	森下 由香	バニラシェイク	北星乗馬クラブ	0
3位	長根 正樹	ワンポイント	ノーザンファーム	0
4位	森下 由香	ミスターブルー	北星乗馬クラブ	0
5位	海道 磨里	北終	北大(4)	0
6位	太田 篤志	ホワイトメロディ	ライディングヒルズ 静内	0
9位	速水 秋	北菓	北大(3)	0
14位	坂田 直子	北菓	北大(3)	0
17位	山川 晃平	北凜	北大(2)	16

☆3課目B part1				得点率
1位	山田 圭介	パハップス	マオイホースパーク	60.579%
2位	安立 のりえ	パハップス	マオイホースパーク	57.825%
3位	山田 康子	ショットガンアニー	ノーザンホースパーク	55.362%
10位	速水 秋	北椎	北大(3)	46.955%

☆2課目 part2				得点率
1位	遊佐 裕美子	フライトマックス	北星乗馬クラブ	58.627%
2位	新井 千尋	柏酔	帯広畜産大学	56.078%
3位	津田 サマン	パッツィー	ノーザンファーム	55.490%
6位	久野 紗絵香	北椎	北大(2)	48.627%
7位	加藤 亜也奈	北椎	北大(2)	46.470%

●北海道春季馬術大会
(於:ノーザンホースパーク 6月18日~20日)

☆標準小障害A				減点	J.O.減点	J.O.タイム
1位	野澤 克彦	ザッツザハリー	JRA日高育成牧場	0	0	31.57
2位	大林 弘明	ナーシャルバトル	新冠乗馬スポーツ少年	0	0	35.25
3位	勝野 晶子	リザーブ	オーフルホースコミュニ	0	0	38.93
4位	西原 和郎	ホワツタイム	モモセRF	0	0	43.95
5位	大庭 晃一	オリオン I	十勝柏友会乗馬クラ	0	4	37.87
6位	小野寺 竜之驥健		酪農学園大学	0	4	40.68

7位	森川 勉	ゴーステディ	ノーザンホースパーク	0	4	42.15
12位	瀧澤 省吾	北凜	北大(3)	8		
open	江口 遼太	北鳳	北大(2)	0		
open	海道 磨里	北柊	北大(4)		落馬E	
2反E	海道 磨里	北柊	北大(4)		2反E	

☆標準中障害D				減点	J.O.減点	J.O.タイム
1位	遠藤 祥郎	スピリッツ I	十勝柏友会乗馬クラ	0	12	41.10
2位	小島 正志朗	スピリッツ I	十勝柏友会乗馬クラ	0	20	59.53
3位	勝野 晶子	リザーブ	オーフルホースコミュニ	0		落馬E
4位	西原 和郎	ライジングハート	モモセRF	4		
8位	出戸 裕人	北創	北大(4)	8		
2反E	山本 栄輔	北菓	北大(4)			
2反E	出戸 裕人	北焰	北大(4)			

☆標準中障害C				減点	J.O.減点	J.O.タイム
1位	兒玉 幹夫	シルバーアロー	JRA日高育成牧場	0	4	41.87
2位	西原 和郎	ライジングハート	モモセRF	0	4	42.52
3位	山本 栄輔	北翔	北大(4)	0	11	49.06

☆標準小障害C part1				減点
1位	森下 由香	パニラシェイク	北星乗馬クラブ	0
2位	中脇 剛	ルフイー	チェスナットファーム	0
3位	長浜 謙太郎	ウィンドライアン	にいかっふホロシリRC	0
4位	速水 秋	北椎	北大(3)	0
5位	川合 達啓	ワンポイント	ノーザンホースパーク	0
6位	加藤 結	ディーエスジャック	にいかっふホロシリRC	0
7位	鈴木 亜衣	フルオブワンダー	モモセRF	0
13位	山本 栄輔	北兎	北大(4)	1
19位	加藤 亜也奈	北椎	北大(2)	4
棄権	宮田 昇太	北凜	北大(2)	

●北海道馬術大会

(於:ノーザンホースパーク 7月23日~25日)

☆標準小障害A				減点	J.O.減点	J.O.タイム
1位	日野 光央	ゼンノエルブルー	モモセRF	0	0	40.62
2位	遠藤 知実	ザ・ロック	十勝柏友会乗馬クラ	0	0	45.36
3位	高野 文彰	ヴィクトワール	乗馬クラブテキーラ	0	0	45.68
4位	大森 杏奈	北創	北大(2)	0	0	47.43
5位	出戸 裕人	北柊	北大(4)	0	4	49.00
6位	住田 優美	テノリオ	酪農学園大学	0	4	50.93
10位	海道 磨里	北柊	北大(4)	1		
12位	江口 遼太	北鳳	北大(2)	4		
経路E	山本 栄輔	北菓	北大(4)			

☆標準中障害D				減点
1位	畠山 彩	ダンデライオン	三木田乗馬学校	3
2位	加藤 結	ディーエスジャック	にいかっふホロシリRC	4
3位	出戸 裕人	北創	北大(4)	4
4位	飯田 洋一郎	チェルシー	JRA日高育成牧場	4
7位	瀧澤 省吾	北凜	北大(3)	12

☆標準中障害C				減点
1位	河田 諒	柏桜	帯広畜産大学	4

2位	山本 栄輔	北菓	北大(4)	(J.O.棄権)
3位	出戸 裕人	北慧	北大(4)	7
4位	勝野 晶子	リザーブ	オーフルホースコミュニ	8

☆標準小障害B				減点
1位	吉田 信玄	パワフルショット	ノーザンファーム	0
2位	平芳 悠人	北菓	北大(1)	0
3位	森下 由香	パニラシェイク	北星乗馬クラブ	0
4位	鈴木 重雄	フルオブワンダー	モモセRF	0
5位	川北 恭司	ルーラパン	ノーザンファーム	0
6位	岡村 友裕	ラ・ヴァレ	ノーザンファーム	0
7位	勝野 晶子	咲良	オーフルホースコミュニ	0
8位	石崎 拓未	駿麗	酪農学園大学	0
9位	佐藤 大介	アラートフォース	酪農学園大学	0
10位	広瀬 楓	ホワイトマーブル	チェスナットファーム	0
11位	島田 泰江	駿麗	酪農学園大学	0
12位	百瀬 利宏	ディラクエ	モモセRF	0
13位	山本 栄輔	北兎	北大(4)	0
30位	坂田 直子	北椎	北大(3)	4
31位	綾部 美晴	北凜	北大(4)	7
2反E	加藤 亜也奈	北鳳	北大(2)	
2反E	速水 秋	北椎	北大(3)	
落馬E	速水 秋	北椎	北大(3)	
落馬E	山川 晃平	北菓	北大(2)	

☆標準小障害C				減点
1位	勝野 晶子	マチカネウコン	モモセRF	0
2位	山口 浩	メニーアワード	RF7セ	0
3位	佐藤 茉莉花	ペンダントトップ	ファントハレ-TF	0
4位	折原 冬弥	ビービーパン	白井牧場不二ファ-	0
5位	山本 栄輔	北兎	北大(4)	0
6位	河田 諒	ヴァンデグローブ	帯広畜産大学	0
棄権	岡崎 遼太郎	北兎	北大(2)	

☆標準小障害A S&H				タイム
1位	上田 和昇	ザッツザハリー	JRA日高育成牧場	61.85
2位	春田 大輔	マチカネウコン	モモセRF	67.78
3位	畑 仁美	ブライツフライ	RF7セ	69.25
4位	川北 恭司	ルーラパン	ノーザンファーム	69.25
5位	菊池 広朗	フェットウデメゾン	ノーザンホースパーク	73.57
6位	鈴木 亜衣	フルオブワンダー	モモセRF	74.34
7位	加藤 芽衣	ティダアパアパ	ライディングチームK	76.93
8位	四位 真理子	アイビー	十勝柏友会乗馬クラ	78.98
9位	四位 真理子	ザ・ロック	十勝柏友会乗馬クラ	79.04
16位	海道 磨里	北柊	北大(4)	85.96

☆中障害D S&H				タイム
1位	日野 光央	ゼンノエルブルー	モモセRF	73.32
2位	富士原 光	雫	帯広畜産大学	79.34
3位	加藤 芽衣	コルト	ライディングチームK	82.45
9位	瀧澤 省吾	北凜	北大(3)	104.14

☆中障害C S&H				タイム
1位	米谷 宏介	シルバーデューク	札幌競馬場	72.51

2位	上田 和昇	カイエン	JRA日高育成牧場	77.90
4位	山本 栄輔	北菓	北大(4)	99.54

☆標準小障害C Part2				減点
1位	庄子 修平	サニー	ノーザンファーム	0
2位	森下 由香	ミスターブルー	北星乗馬クラブ	0
3位	根津 恵	ワンポイント	ノーザンファーム	0
4位	菅野 亜利沙	トウカイポイント	ノーザンファーム	0
5位	太田 篤志	マイネルディンブル	ライディングヒルズ 静内	0
6位	古川 清誉	コア	にいかっぷホロシリRC	0
7位	日高 修平	マイネルディンブル	ライディングヒルズ 静内	0
8位	百瀬 利宏	セイレーンズソング	モモセRF	0
11位	速水 秋	北椎	北大(3)	0
13位	柳田 睦仁	北兎	北大(2)	0
14位	西村 英里	北椎	北大(2)	0
22位	山川 晃平	北椎	北大(2)	6
23位	山本 栄輔	北兎	北大(4)	8
27位	岡崎 遼太郎	北兎	北大(2)	20

☆2課目 Part1				得点率
1位	富士原 光	雫	帯広畜産大学	56.470%
2位	神田 美幸	ニコラス	モモセRF	53.529%
4位	綾部 美晴	北椎	北大(4)	51.960%
5位	速水 秋	北椎	北大(3)	51.764%
6位	江口 遼太	北鳳	北大(2)	50.784%

●北日本学生馬術大会

(於:ノーザンホースパーク 8月24日~31日)

☆学生賞典障害飛越競技(二回走行)

	1走目	2走目	総減点
1位 鈴木 康浩 柏嵐	12	8	20
2位 山本 栄輔 北翔	16	20	36
3位 平芳 悠人 北焰	20	20	40
2反E 出戸 裕人 北慧			

☆学生賞典総合馬術競技

	調教減点	耐久減点	余力減点	総減点
1位 関口 美那 柏海	66.9	0	8	74.9
2位 出戸 裕人 北慧	63.3	0	14	77.3
3位 河田 諒 柏桜	66.9	2.8	12	81.7
耐久E 出戸 裕人 北創				
耐久E 山本 栄輔 北菓				
耐久E 瀧澤 省吾 北凜				

☆小障害A

	減点	タイム	J.O.減点	J.O.タイム
1位 福田 一平 テノリオ	0	74.32	0	43.49
2位 石崎 拓未 テノリオ	0	69.16	4	48.49
3位 大森 杏奈 北創	4	65.19		
8位 海道 磨里 北柊	9	87.07		
9位 柳田 睦仁 北柊	12	67.85		
2反E 江口 遼太 北鳳				
OP 出戸 裕人 北創	4	72.43		
OP 江口 遼太 北鳳	12	67.85		

☆小障害B

減点 タイム

1位	山川 晃平	北鳳	北大(2)	0	59.89
2位	坂本 直樹	アラートフォース	酪農学園大学	0	62.3
5位	坂田 直子	北鳳	北大(3)	4	68.67
6位	瀧澤 省吾	北凜	北大(3)	8	60.29
7位	西村 英里	北凜	北大(2)	12	58.86
9位	岡崎 遼太郎	北兎	北大(2)	20	72.2

●北海道秋季馬術大会

(於：ノーザンホースパーク 9月17日～19日)

☆第2課目				得点率
1位	百瀬 利宏	マチカネキララ	モモセRF	58.234
2位	星川 知子	ウィンダム	モモセRF	55.489
6位	岡崎 遼太郎	北凜	北大(2)	52.940

☆標準小障害C Part1				減点	タイム
1位	森下 由香	パニラシェイク	モモセRF	0	52.51
2位	本間 準子	マイネルディンブル	ライディングヒルス [®] 静内	0	52.67
3位	山田 幸晴	パニラシェイク	モモセRF	0	56.71
8位	坂田 直子	北菓	北大(3)	0	65.84
15位	西村 英里	チェリーアドミラル	北大(2)	4	61.90
16位	加藤 亜也奈	チェリーアドミラル	北大(2)	8	69.90
20位	山川 晃平	北菓	北大(2)	12	78.22
2反E	綾部 美晴	北煌	北大(4)		

☆標準小障害C part2

1位	岩上 洋子	トウカイカムカム	ほくせい乗馬クラブ	0	58.43
2位	日高 修平	マイネルディンブル	ライディングヒルス [®] 静内	0	61.81
2反E	速水 秋	北菓	北大(3)		
2反E	大森 杏奈	北菓	北大(2)		

●全日本学生馬術大会

(於：東京馬事公苑)

☆学生賞典障害飛越競技				1走目	2走目	J.O.減点	J.O.タイム
1位	鳥谷部 健太	桜俊	日本大学	4	0	0	52.81
2位	植田 俊輔	ロックンジャー	専修大学	4	0	0	55.85
3位	斎藤 功貴	明菓	明治大学	4	0	8	50.39
18位	鈴木 康浩	柏嵐	帯広畜産大学	0	16		
22位	河田 諒	柏桜	帯広畜産大学	4	12		
34位	鈴木 裕宇利	柏海	帯広畜産大学	12	24		
50位	平芳 悠人	北焔	北大(1)	E	20		
2反E	山本 栄輔	北翔	北大(4)				
2反E	出戸 裕人	北創	北大(4)				

☆学生賞典総合馬術競技				調教減点	耐久減点	余力減点	総減点
1位	斎藤 功貴	明菓	明治大学	53.9	0	0	53.9
2位	梅田 敬仁	桜逢	日本大学	50.9	0	4	54.9
3位	吉田 賢人	明望	明治大学	58.1	0	0	58.1
18位	鈴木 裕宇利	柏海	帯広畜産大学	75.7	38.8	0	114.5
24位	出戸 裕人	北彗	北大(4)	76.5	51.2	17	144.7
29位	野坂 拓史	テノリオ	酪農学園大学	79.5	82.4	8	169.9
落馬E	木村 俊博	マキシマムプレイ	酪農学園大学				
耐久E	河田 諒	柏桜	帯広畜産大学				

調教報告

◆北彗号（メジロゲネシス）◆



セン サラ 葦毛
平成5年5月30日生
北海道伊達市産
父 メジロティターン
母 メジロマリア
平成10年11月8日入厩

出 戸 裕 人

昨年の全日失権以降、次年度の目標を全日2走を帰ってこられる状態にすることと全日総合で入賞することとし、その目標に到達するためにやってきたこの1年の過程を今年は書こうと思う。そのため、調教以外のことも書くことになるが、ご了承ください。

まずは、昨年の失敗から。全日では2走・総合とも出場したが、W失権となった。昨年書いた諸事情により枠をもらい、状態もよくなっている最中だったのだが、2走では本番でスタジアムに入った途端にひるみ前進氣勢がなくなり(後述するが、これらのことから今年はある程度入場からスタートまでのルーティンを決めておくことにした。)、それを持ち越すような形で余力も失権となった。そこから学んだことは、いかに馬が自主的に飛ぶ状態で1番障害に向かえるか、ということだった。たとえホームグラウンドで力まかせに140cmや150cmを飛んでいても、それは何の意味ももたず、それよりも130cmをノーサポートで飛ぶほうが馬にとっては何倍も価値のあるものになる(最低限の扶助は必要だが)。なので今年、ホームでは「必要な高さ→ジムナスティック、必要な距離感(ライン、障害に対する目など)→80cm程の障害or横木」で徹底した。また、障害練習は週2～3回とし、馬が頭を使って飛越した次の日は頭を使わせない運動にし、あとはFWで脚反応や口の反応をよくした。ジムナスティックは基本的に3種類のを2週に1回ずつ、1日3～4飛越のペースで行い、馬が飽きないように。また、高いものは週1回程度にした。

以下にその3種類を並べる。

① I_{2.8}I_{5.4}XI₆II₉ (8.7) II_{6.3}II

② I_{6.5}II_{6.5}II_{6.5}II

③ I_{3.2(3)}I_{6.1}II_{6.5}II_{6.9}II

それぞれトレーニングの効果は違うため上げる高さも変わってくるが、その効果を理解し感じられれば、それ以上はやらないようにした。結果、1日3～4飛越で十分だった。

ライン練習などは25m（6歩）を5～10歩で意図した通りの歩数で行ったり、15mを5歩で行ったりと、1歩1歩を支配できるようにした。正直なところ、ここまでの練習は今の北大の他の人馬には必要ないと思うが、障害に対して痛いことも怖いことも知っている馬なので、そこまで支配して飛越しやすい位置に連れて行ってこそ自主性を求められ、そうしなければ僕とゲネでは120cmを満点で帰ってくることはできないと思い、必要なトレーニングとして実施した。

FWでは、6月に前々任の一色兄に来ていただいたときに指摘された「バランスバックで苦しくなると腰から逃げる」ということが全てだった。少し長い所なら我慢してくれるが、130cmのギアにするために必要なバランスにしようとする一気に逃げてしまう。ただ、試合になると馬も分かっている、準備運動から逃げることもなかったもので、楽観視している部分はあった。

ここで、試合での準備運動の方法だが、今年は必ず朝1度出し、低伸運動中心に15分位で体をほぐし、1度厩舎に戻してから出番の前15～20分で仕上げる方法をとった。また飛越は基本3、4飛越とした。試合を分かっている古馬なので、運動や飛越に飽きさせない、体への負担を最小に、という目的で行い、実際試合前は前進氣勢に溢れていた。また、舌鼓をしたときに、馬が飛び出るくらい前に出る状態を確認するときもあり、ベルが鳴ってからスタートまでの間に、歩度の出し詰めを必ず行い、1番の前に障害を1度飛ぶつもりでスタートした。

ホームでのポロが出たのは7月の道大会への過程に於いて。1週前の③のジムナスティックで今季初めて拒止した。アプローチで少し腰が逃げそうになり、入りから飛越がバラバラだったが、なんとか最後を残して飛んでくれた。が、最後120×130cmのオクサーに届かなかった。その後1度反抗し、高さを下げたりして止まってから3度目にはオクサーを飛んでくれたが、この拒止は大きなものとなった。北日前に失敗しておいてよかったと思う反面、ここまで順調に來られたので、それを維持したかった。これがどう出るかはまったく読めなかった。そして試合の2日前に①のジムナス

ティックで120×120cmをやったが、全くひるまなかった。(ちなみに、今季ホームで止まったのはこれが最初で最後だった。)

疑問に思いつつ出場した120cmではダブルのBで試合では初めて止まった。その後向かいなおして飛んでくれたが、止まったときは前週のトレーニングでの失敗が原因だと思った。しかし、そのダブルに入る前の7歩のラインを6歩で行ってしまったので、伸びて突っ込み、怖くなって体を硬くしたのだと感じた。結局帰ってくることはできた。ただ、このままでは北日で勝負にならないと思い、次の日に畜大OBの小笠原さんに乗ってもらった。小笠原さんは現在は競走馬に乗られていて、昨年からは練習や試合を見てもらっていたが、今回初めて乗ってもらった。5分もすると、馬の動きが変わってしまった。今まで見たこともないような速歩をしていた。前肩の出方が違い、頭頸が低い位置で運動していたのに乗り変わった後には今までより格段にバランスが戻りやすくなっていた。身体をほぐすとはこういうことだと4年目にしてやっと分かった。今回の大会の結果如何で北日の2走に出ようか迷っていたが、この運動を続けられれば出てもいい位置に立てるのではないかと感じた。そして北日を迎えるのだが、2走は半信半疑だったが、総合は優勝を狙える位置にいたと思う。

そして北日がやってきたのだが、その前に少し。精神論になってしまうのだが、先に全日入賞が目標と書いたが、そのために今回の北日では総合で優勝しなければならないと思っていた。昨年は勝つには勝ったが正直まぐれであった。個人的には2回勝たないと本物ではないと思う。もしくは前年度優勝馬か全日入賞馬などの、優勝や入賞を早い段階から意識している人馬でないと全国では歯が立たない。強豪といわれる大学の学生達は高校生、あるいは中学生の頃からそういう場を越えてきているし、馬術は経験のスポーツと言われているのだから特にそうなのだろう。

北日では、結果を先に言うと惨敗。2走は僕の2走目の失権のせいで団体・個人とも優勝を逃し、総合は余力まで会心の出来ながらでありながら1反抗1落下があり2位。失敗は人のミスによるものだった。馬の状態は道大会以降上向きだったのに……。ということで、結果以上の敗戦となった。後から思うのだが、原因は技術面もさることながら精神面が最も大きな問題だろう。北日や全日の空気は普段の道大会では味わうことができない。後輩たちには、負けないでやってもらいたい。

結局、枠に対して帰ってきた馬が少なく、2走・総合の両方とも枠をもらったので、全日へは両方で出場することができた。北日から全日までのことについては「馬ノート」なるもの(1年の調教記録や運動内容を日毎に記したもの)に詳しく書いてあるのでここでは書かないことにするが、この期間で、これ以上調教の進んだ馬のイメージがもてないというくらいに状態は良くなった。大きく変わったのは馬のSelf carriageで、後肢の踏み込みにより自然とバランスバックし、手綱はつまむ程の弱さなのに駈歩がゆっくり大きくなっていて、出発2週間前にはノーサポートで140cmの

垂直まで飛べるようになっていた。ここでやっと全日で勝負できる状態になったと思う。

全日では2走と総合に出る予定だったが、総合のみに出ることにした（理由は北創の欄にあります）。フレンドリーは2反こそしたものの、ほぼノーサポートで走行できたのでフレンドリーとしては悪くなかった。

ただ競技ではそれぞれの審査でやらかしてしまった。調教では終始暴れた。東京では毎度のことなので、今後は前日と当日の飼いの量を減らす、朝の運動で汗だくになるまでやる、などの工夫しないといけないかもしれない。耐久は走行中に破行したようで、いつも左肩を張る馬が途中で右肩を張るようになり1反抗。野外では初めての反抗だったので少しショックだったが、先入観で乗ってしまっていたミスだった。余力は野外後で馬の1歩がいつもより大きくなっていて、これも先入観により距離を読み間違え1反抗。ずっとラインの2つ目が届かないと言われていたが、今年はそんなことが1度もなかったのに馬を信用しきれなかった。本当に馬に申し訳なかったと思う。そんなこんなでボロボロの全日となったが、この期間中の状態は本当によく、去年引っ掻き回された野外も今年は手綱を握るだけで収まる状態だったし、最悪の結果でありながら入賞までもう少しの順位であった。ゲネは能力的には調教-63（58%）、野外-12（タイム+30秒）、余力0の合計-75程で帰ってこられる馬だし、そういう状態だったと思う。後は乗り手の技術と、いかにホームでのパフォーマンスを出せるかだと思う。ゲネはまだまだ使える。

最後に、僕が今年大いに参考にしたのは、水野さんからいただいたJRA職員の福島大輔さんの海外研修レポートをまとめたものだった。これによって馬のトレーニングの意図や精神面を今までよりずっと考えながら練習できた。これは馬術情報にも毎月連載されていたので現役には今一度目を通してもらいたい。時期が違えば読み方も変わってくると思う。

また、イメージを作るなら本城さんからいただいたDVDや世界選手権の映像が分かりやすい。本で比較的読みやすいものは今村馬術やセンタードライディング、畜大の杉山さんの資料など、これ以上はマニアックになるのでやめておくが、参考となる資料は沢山ある。部報も然り。チーフにはどんどん勉強してもらいたい。

最後の最後に、お世話になったOBや本当に多くの外部の方々、ありがとうございました。そしてゲネシス、馬術を教えてくれて本当にありがとう。

◆北鳳号 (ヤスノインディアン) ◆



セン サラ 鹿毛
平成8年4月29日生
北海道三石郡三石町産
父 ダイヤモンドシヨール
母 ヒカリハード
平成13年12月2日入厩

江口 遼 太

自分は事情により前チーフから2月にヤスを引き継ぎ、乗せていただくことになりました。1年目という立場でしたので、主に自分が馬から学んでチーフとして成長していくということを目的とし、吉村さんに馬の維持と自分の指導をお願いして半年間やらせていただきました。そのため、この調教報告も自分が半年で何を行って何を学んだか、そしてその反省となることをお許しく下さい。

まず、乗り替わった2月～3月の冬の間は、跛行が良くなったばかりで足場も悪いということで、常歩から徐々に速歩もやっていくという形で運動しました。最初のうちは常歩・速歩ともに全く動かすことができず、特に右手前では輪乗りの維持や巻き乗りさえ思ったように出来ない状態でした。これは、人がいつも安定したバランスで乗れていなかったことや曲げようと思うと内を向いてしまうといったことが原因で、いかに自分の基本姿勢が不十分であるかということに馬に教えてもらうことになりました。そのため、冬の間はひたすら人の正しい姿勢を意識した練習を続けました。

3月末からは足場も良くなったため、駈歩や障害も取り入れて運動していきました。この時期から半澤杯・新緑大会までは、ツーポイントで動いた馬に乗っていき、障害やその間の回転などでいかに馬の邪魔をせずに経路を廻れるかということ意識した練習を行いました。具体的には吉村さんにまず馬の動いた状態を作ってもらい、自分は輪乗りを中心に駈歩で安定したツーポイントができるように練習しました。障害に関しては、コンビネーションを多く行いました。馬の邪魔をしないバランスや随伴姿勢、馬が飛びやすいアプローチを意識して練習しましたが、アプローチで馬が十分動いておらず、コンビネーション中でも馬の前進氣勢が保てずにスムーズな飛びが出来ない場面が多々ありました。半澤杯と新緑大会では90cmクラスに出場し、結果としてはどちらも満点で帰ってくることは出来ました。しかし、内容としては人の姿勢がツーポイントで上半身が前に行って手を引き込み、馬が走った状態のままメリハリのないペースでの走行になってしまっていました。また、回転で人が内に傾き、いいラ

イン取りも出来ておらず、課題の多い経路廻りとなったと思います。

その後春自馬までは駈歩でスリーポイントも取り入れ自分で馬を動かしていき、さらにバランスと脚でいい回転ができるようにコントロールしていく練習や、低伸運動の練習も多くやっていました。また、公認大会までは本格的に自分で準備運動をして経路を廻れるような練習を行っていました。低伸運動では、まず一定のコンタクトを保つことができず、ハミに届かせるだけの推進も十分にできなかったため、ゴーグをつけての練習から始めていきました。障害練習ではライン障害も取り入れて、高さや幅のある障害・モノを入れた障害などを飛んでいきました。コンビネーションで前進氣勢が保ちにくいこともあり、高さや幅のある障害練習は駈歩で動かしてライン障害で行うのがいいのではないかと感じました。準備運動を意識して練習していく中では自分がいかに馬を動かせていないのかということ強く感じ、駈歩でも大きく動かさずに走らせるだけになってしまっていました。春自馬でも公認大会でも最終的に吉村さんに準備運動をしてもらってLAに出場し、公認大会ではある程度動いた状態に乗っていい経路走行ができていたのではないかと思います。回転でしっかり脚を使うように意識したのですが、そこから障害前で待つことと馬を起こして落ち着いて経路を廻ることが課題となりました。ただ、公認大会で出た2課目では馬がハミを嫌がり、駈歩では走られてしまい、結局自分の脚に従わせることが出来ていないという結果が出たのだと思います。

公認大会から北日までは、怪我で1週間乗れなかった時期もありあまり時間がなかったため、トリプルやモノを入れた障害練習など実践的な練習を多く行いました。そこでもやはり馬を動かしていくことが出来ず、走らせるだけになってしまっていました。そのせいか馬が落ち着きを失って特に左手前で脚に従わせて常歩ができず、左手前の駈歩が出せないという状態に陥ってしまうこともありました。

そのような状態をうまく改善できずに臨んだ北日でしたが、福島については暑さと馬の体力を考え軽めの運動に抑え、障害練習も小障害前々日の1回のみにしめました。福島では馬のテンションが上がっていたのか自分から走っていくような状態で、それをなかなか落ち着かせることが出来ず、経路に入っても障害に走って突っ込ませ、ひるんだところで馬に飛ばせる脚も使えずに回転後のオクサーで二反抗失権という結果になってしまいました。追加エントリーでは帰ってくる事が出来たものの、馬に走られ、さらにそこでも馬の上で人が静かに乗っていることが出来ず、止まられるのが怖くて障害前に追ってしまうという走行になり、反省点ばかりの北日となってしまいました。また、北日終了後に野外馴致も行いました。野外障害も最初に向けたときはやはり馬がひるみ止まろうとするため、そこで押し込む脚が必要となりました。最終的にコース走行も行いましたが、障害を飛んでいくごとに馬が前のめりに走っていき、人が体を起して我慢することが出来ずずっと持って行かれっぱなしの状態に

なってしまっていました。

半年間を通して改善できなかった点として、馬を自分の脚で動かせていないために、大会の準備馬場など他の馬が多いところでは落ち着きを失い走られてしまい、経路では障害に対して良いアプローチが出来ず、馬がひるんだところで脚で押すこともできずに止まられてしまうということが一番大きかったのではないかと思います。半年間乗った中で、勉強させてもらうばかりで結局ヤスに頼りきりになってしまい、ヤスを助けてあげることが出来なかったことが馬に本当に申し訳なかったと感じています。

最後に、こんなチーフとして未熟なところばかりの自分を見守り、時には助けてくださったみなさん、ありがとうございました。そして、騎乗面から馬との接し方までチーフとして自分がやっていけるように半年間ずっと指導してくださった吉村さん、本当にありがとうございました。吉村さんの指導や皆さんの支えがあったからこそ未熟なりにも半年間チーフをやってくることが出来たのだと思います。今回いただいたこの貴重な経験を必ずこれからの馬術部のために生かしていきます。

◆北翔号 (シンコウブラウン) ◆



セン サラ 鹿毛
平成2年3月6日生
北海道浦河郡浦河町産
父 クライムカイザー
母 アーマゲイ
平成15年1月19日入厩

山 本 栄 輔

シンコウブラウンという馬の能力、センスは、今までの部報に書いてあるように疑いようがないものであった。だから、人が馬に教えてもらうだけで、馬に調教することは何一つなかった。と、書くつもりでいた。

しかし、シンコウブラウンほど連続障害のトレーニングが必要な馬はいなかったと思う。実際、体力的にそのようなトレーニングを行うことは難しかったであろうが、トレーニングの必要性については認識しておき、その可能性を探るべきだった。

最初からこのようなことを書いたが、全日学での失敗は全て人のせいである。人に130cmの経路を回るだけの力量がなかったため、シンコウに有終の美を飾らせることができなかったことは本当に申し訳なく思うし、命をかけて障害を飛んだシンコウを目の当たりにして本当に情けなく思う。

シンコウはその全日学を最後に引退する。シンコウの北大での最後の一年の記録として調教報告を書いていこうと思う。

私が担当となる前年のシンコウを見ていて感じたのは、体力的な限界が近づいており、必要以上の負荷はかけられないということであった。しかし、障害に対する能力は未だ健在であったので、しっかりと体のケアを行えばもう一年いけると思った。

そこで私の立てた目標は、出来るだけ馬に負担をかけずに人の技術向上を計ること、一番いい状態で全日学を迎えることであった。

<日々のトレーニング>

普段のFwは常歩中心で、十分に扶助の確認をしてから速歩を最後に行い、そこで見つかった課題を次の日の常歩で確認してからまた速歩というサイクルであった。駈歩は、馬の負担軽減のため週二回ほどしかしなかったが、その時は馬を動いた状態にして、人がバランスを崩さずに乗っていく練習を主にしていた。

そして、シーズンの中で徐々にバランスバックした状態に馬を持っていくこと、出来るだけ少ない扶助でコントロールできるように心がけた。

また、毎日の練習後にはかかさず水冷（左後肢中心）をし、夕当時には元気のよい引き馬を毎日行い、引き馬後も水冷を行った。引き馬は、立ち腫れ防止と体力をつけるために行っていたのだが、北日に向けて徐々に時間を長くしていった。

<障害について>

障害練習に関しても最小限にしようと思い、ほとんど試合以外では飛ばず、試合が練習という感じであった。また、試合の時の練習障害も人の不安解消のために無駄に飛んだりしないよう心がけた。

障害飛越の際に一番注意したことは、障害前で必要以上に馬に干渉しないということであった。しっかりと3歩前までにリズムとペースを作り、そこから先に腰で追ったり、脚を無駄に使ったりすることで、馬の障害飛越を邪魔しないようにした。

また、最初から最後まで同じ一定のペースをキープすること（最初は動いてなくて、最後はかかっているというようにならないよう）注意した。

踏み切りに関しては、人に合わせる技術がなかったため、いい駆歩をしていれば踏み切りは8割合うというバリーさんの言葉（バリーさんは一言も踏み切りを合わせる必要はないと言わなかったが）と馬の踏み切り調整能力を信じて、馬に全部お願いした。

試合への調整の仕方はOBの水野さんよりお送り頂いた福島大輔さんの資料を参考に行った。最も参考になったのは、トレーニングのための競技会と勝負をかける競技会を分けるということと、競技会当日の朝運動のメリットである。詳しくは部室にある資料を読んでもらいたい。

<北日学>

北日学については、直前に障害練習で失敗したこともあり、決していい状態で迎えることはできなかった。そのため、流れのある経路走行をするというよりも、一つ一つの障害を確実に飛越していくという形になってしまった。本当は北日で少しでもいい状態をつかんで全日に望みたかったのだが、北日を突破しないことには全日に進めないため、やむを得なかった。

正直、北日学を突破することができたのは、馬と経路に助けられたからである。馬の体力が残っていて、トリプルの距離が極端に狭くて馬が逃げるができなかった（左手前の飛越だったこともある）からである。北日の時点では気づかなかったが、このことを全日に生かすべきだった。

また、今年の北日はかなり暑かったため、馬がばてないように、運動時間は少なく

し、水缶には粉末ポカリスエットか塩を入れていた。

<全日学>

北日学後の馬の疲労はピークであり、引き馬ですら動きはガタガタであった。休養をとりつつ、乗り始めて解していき、北日前の動ける状態になった時には、全日学まで一ヶ月半を切っていた。

そこから全日学の間にも今までのFwの質をあげて運動していこうと思っていたときに、明治大学OBの戸本一真さんに練習をチラ見していただく機会があった。そのときのアドバイスがとても印象的であったので紹介しようと思う。それは「馬の体を解すときに、どの筋肉が解れているかを意識して乗ること」であった。背中を使わせないのであればただ頭を下げておくだけでなく動かしていくこと、肩を内へを行うこと肩の筋肉を解すなど、考えることでより効率的に行うことができるし、解れたのであればもうそれ以上続けて馬に負荷をかけることはしなくていいから、しっかり意識して乗れとのことであった。この言葉を頂いてから見違えるようにトレーニング効率も上がり、横運動などもスムーズに行えるようになった。

それから順調に調整が進むことを予期していたが、全日学まで一ヶ月を切った時、馬の右後肢に血腫が出来てしまい、歩くことさえままならない状態になってしまった。正直、その状態を見た時には全日学は無理だろうと思い、なぜもっと早く予兆に気づかなかったのだろうと後悔した。

その時、部員からは、何よりも団体として結果を残すことを優先するというので、乗換案が提案された。結局その選択をすることはなかったが、そのような方法を考えていただいたことには感謝している。

シンコウはどうなったかという、OBの川崎獣医師の尽力もあり、なんとか全日学の5日前（出発の前日）には乗れる状態になった。試合前には乗れる期間は三日間しかなく、早急に調整する必要があったので折り返し手綱を使用した。それまでは、折り返し手綱の使用に抵抗があったが、使ってみると今まで苦労していたのが嘘のように一鞍二鞍で効果が現れ、もっと前から積極的に使用しても良かったと思った。

フレンドリーに関しては、馬の状態と調整具合を考慮して、出場しないことにし、その日は練習馬場で2、3飛越するだけにした。

調整不足にも関わらず、一走目の状態は最高であった。今日が本番だと言うことは何もしなくても馬がしっかりわかっていた。ここまで踏み込んで動いてきたことも、体の真下から前進気勢を感じたこともなかった。試合中も終始、アップヒルの駆歩を

していた。

対して、二走目は準備馬場からおかしかった。全く力強さを感じなかったし、本当に体力の限界がきているんだなと感じた。試合中も一走目とここまで違うかというぐらいで、駆歩もダウンヒルの状態だった。

<最後に>

シンコウブラウンという誰もが知っている名馬に乗っていながら何も形として残せず、本当に申し訳なく思います。

お忙しい中練習を見ていただいた野村兄、東京からはるばる指導に来て下さった谷口兄、何度も励ましていただいた中田兄、本当にありがとうございました。前野兄、林兄の全日学のビデオも何回も見て参考にさせて頂きました。

全日学前に仕事の合間をぬって治療をして頂いた川崎兄には感謝してもしきれません。

北日、全日と馬付きをしてくれた松尾、西村、久野、高居もありがとう。日々のサポートがあったからこそ、ここまで出来たんだと思う。

そして、シンコウ、今まで本当にありがとう。お疲れさま。

◆北椎（シーベスト）◆



セン サラ 黒鹿毛
平成9年6月5日生
北海道浦河郡浦河町産
父 タマモクロス
母 シークイン
平成15年8月25日入厩

速 水 秋

調教というより、人が馬に教えてもらうことばかりの1年間でした。

代替わり後は武藤兄に練習を見ていただきながら、障害の練習を多めに行った。常に馬を動かそうという意識で乗っていたが、脚を使おうとすると拍車がすぐ入ってしまい、馬が耳を伏せたり、けっぱねてしまうようになり、他の人が乗っても脚に警戒するようになってしまった。また、馬を誘導しようとするときに拳が安定せず手綱で引っ張ってしまうこと、馬が動かないときに人が動きすぎて邪魔をしてしまい、さらに馬が動かなくなるということが課題であった。

これら影響は雪が積もってから顕著に現れるようになった。回転しようとして内方手綱を引っ張って内を向いてしまうと肩を張って外に逃げてしまい、そうするとさらに内方を引っ張ってしまうという悪循環に陥ってしまった。また馬の状態もかなり悪くなっていたので、慶應大学OBの貫名さんに練習を見ていただいた。雪が積もっている間は人の姿勢を改善するため、基本的な姿勢の確認の練習に専念した。まずは放棄手綱の状態で正反動を続け、人が暴れないで座ってられるようにした。静かに乗ってられるようになったところで練習に前肢旋回など横運動を少し取り入れ左右の脚反応を確かめるようにした。手綱に頼らず、坐骨のバランスにも気をつけ、矛盾のない扶助を送るようにすると、馬も素直に反応してくれるようになった。手綱を持つと拳が不安定で邪魔をしてしまうので、拳を安定させ一定のコンタクトをとり続けられるよう意識した。人の癖ですぐに脇が開いて拳が伏せてしまっていたので、それを改善するだけでだいぶよくなったように思う。

春先には崩れていた人と馬の関係が少しずつ改善されてきていたが、蹄の状態が悪くなり、しばらく運動できない状態になってしまった。シーベストは右前肢の蹄に元々蟻洞があり、日々消毒はしていたが、蹄の形が悪く質も悪いため、日に日に穴の部分が大きくなっていった。春先に落鉄したときから、右前肢に体重をかけるのを怖がるようになり、蹄鉄をつけても跛行が続いた。装蹄師の山川さんと相談し、蟻洞のあ

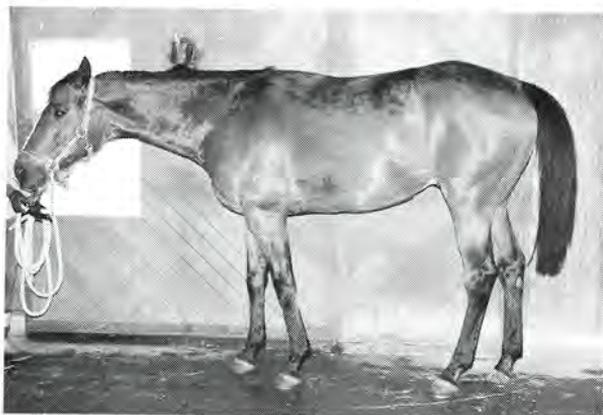
るところを削って、そこに充填剤を詰めて蹄が伸びるのを待つことにした。充填剤を入れてからは歩様は改善したが、しばらくは様子見の状態、障害練習はせず、フラットワークのみを行った。半沢杯と新緑では3課目に出場した。シーベストは速歩で歩度を伸ばそうとするとイレギュラーが入りやすく、ハミ受けができず、騎座が浅い自分では歩度の詰め伸ばしがうまくいかなかったり頭を振ったりされてしまうことが多かった。誘導はしやすい馬なので、ポイントをしっかり守る、移行を正確に行うなどのポイントは正確に行うよう気をつけた。

新緑以降は蹄に問題がないようだったので、障害練習を始めた。シーベストは障害を飛ぶとき一歩詰まって飛びやすく、人が先飛びしてしまい、うまく随伴できずに邪魔をしてしまうことが多かった。馬を動かそうと前にばかり出そうとしてしまい、歩度を詰めた状態で動かすということができず、経路中でも走らせては障害前で詰まりながら飛ぶということを繰り返してしまっていた。経路中のペースが速すぎるということも指摘されていて、もっと歩度にメリハリをつけ、馬が力をためながら障害に向かえるような経路回りをするようにできればよかったと思う。また、障害前で馬を押そうと人が暴れる癖がまた出てきてしまい、少し高いオクサーなどで馬が止まるようになってしまった。LCは何か帰ってきていたものの、LBでは失権という結果になってしまった。これは障害だと人が力みすぎてがむしゃらに動かそうとしすぎていたことが原因で、障害での練習もフラットワークの延長にあるということをもっと意識して、ただ走らせるだけでなく、脚の反応を確かめながら丁寧にやればよかったと思う。

この1年間でシーベストの状態を悪くしてしまったのは、人が基本的な姿勢が固まっておらず、すぐ崩れてしまうことに原因があったと思う。障害をやるにしても、うまくいかないときはあせって馬を追うのではなく、基本的な人の姿勢を確認するようにすればよかったと後悔が残る。また、練習の組み立て時間も長くなりやすく時間配分などをもっと考えていたら、蹄への負担ももっと小さくて済んだと思うと、チーフとしての自覚が足りなかったことを痛感する。今年シーベストから学んだことを来期は次の馬で生かしていきたい。

最後に、下手な私を支えてくださった皆様にお礼を申し上げます。特に毎日練習を見ていただき貴重なアドバイスをたくさんいただいた武藤兄、貫名さん、そして毎日の長い練習時間をがんばってくれたシーベスト、本当にありがとうございました。

◆北煌号（ウインジーニアス）◆



セン サラ 鹿毛
平成12年4月19日生
北海道千歳市産
父 バブルガムフェロー
母 サクラギャル
平成16年10月24日入厩

綾 部 美 晴

ジーニアスと私のシーズン中の目標は

- ・高いレベルを求めるよりも、一定の乗りやすい状態を維持すること
- ・練習のバリエーションを増やし個々の下級生の要望にできるだけこたえること
- ・コンスタントに鞍数を稼ぐこと

でした。そして私がジーニアスに騎乗する際に行ったのは

- ・正しいバランスでまっすぐ乗ること
- ・矛盾がなくわかりやすい扶助を使うこと
- ・馬に求めることを明確に意識し、必ずやらせること
- ・人の実力以上のことをしないこと

というとても基本的な内容だけです。しかしその結果シーズンの終わりには

- ・扶助に従順で移行、回転がスムーズ
- ・下級生が乗っても操作性がよい
- ・馬場でも障害でも理由のない反抗をしない

というような、ごく当たり前ですが、この馬に欠けていた練習馬としての必須要素を養うことができました。これは人と馬の関係作りと、馬の精神状態の良化によるものだと確信しています。私は調教といえるようなことは何もしていないので、ここでは技量のない私が何を考えながらジーニアスに騎乗し、どのように関係を築いていったかを書きたいと思います。技量が十分でないなかチーフをやる人、これからチーフを

目指したいと思っている人たちに参考にしてもらえたらと思います。

ジーニアスは調子の上下が激しくて許容範囲が狭い、性格は気分屋で頑固で運動に後ろ向き、その為に悪循環に陥りやすいと評されます。しかし私は、この馬はちょっとナイーブで、物事を考えすぎる傾向があるだけだと思います。先に述べたマイナス面は、運動中に人と馬との約束事が明確になっておらず、馬が何を求められているのかわからないまま無理やり運動させられてイライラしていることからきているのです。そうなるとどんな簡単な運動もやりたくなく常に逃げる隙を窺っていて、大木すら跨ぎたくないし曲がるのも嫌、という状態になります。そして人がそれをどうにかしようと間違った扶助で強引に運動させて、馬はますますやる気をなくして反抗を重ねるといった悪循環に陥りやすいのです。

そこで私が騎乗するときの方針は、人がまっすぐ乗って矛盾のなく正しい扶助を使う範囲で運動するというものでした。それを超えずにいれば馬が扶助に従わなかったときも自信をもって叱ることができますし、理に適っていれば馬もすぐに納得します。その為に、シーズン前はひたすら人のバランスの強化と矛盾しない扶助の習得に時間を割きました。本来はチーフになる前にやっておくことですが、これが本当に重要であったと思います。

シーズン中も自分が正しくできる範囲の基本的なフラットワークで、運動の精度を上げていくことだけを行いました。停止、発進、移行、巻乗り、輪乗りの開閉などです。斜め横足以上は自信がなかったので馬と相談しながら行いました。そして常に自分のバランス、扶助が正しいか、馬は納得しているかの確認を怠らないようにしました。この方針が良かったようで、馬は人の扶助を納得、信用し、気分よく運動しているようでした。一番そう感じられたのは、下級生が雑な扶助を使っても馬がフォローして運動してくれて、前述したような悪循環に陥ることがなかった点です。駢歩を始めたばかりの1年生でも駢歩で輪乗りができ、2年生以上なら3課目を正確に回れるような状態を維持できました。私自身もシーズン後半にはシンプルチェンジ、反対駢歩も難なくこなせるほどの関係が作れました。

フラットワークでの関係作りはそのまま障碍にも現われました。障碍では人が正しく乗っていることも難しく馬の邪魔ばかりしてしまい、シーズン前半はひどい状態でした。それでも落ち着いてフラットワークに集中する日を挟むことで馬は運動そのものに前向きになり、障碍でも人を助けてくれるようになりました。人が障碍にまっすぐ向けさえすれば、加速こそしませんが一定のペースで跳んでくれ、北大馬場での80cmの経路なら誰が乗っても帰ってこられる状態になりました。もともとMDまで回っ

てくる実力がある馬ですから、気持ちがあれば80cmぐらい余裕です。

話は変わりますが、ジーニアスはシーズン中毎日およそ5鞍、2時間以上に及ぶ練習にも関わらず1日も休んだり鞍数を減らしたりすることなく練習馬としての役割を全うしてくれました。また、以前は馬房の中ではいつも後ろを向いていて、手入れ中もイライラしていた同馬ですが、運動中の摩擦が減るにつれて、馬房からよく顔を出し、手入れ中も始終機嫌良くおとなしく、曳き馬中に周りに煽られて暴れることも一切ありませんでした。一見無関係に思われますが、いずれも人と馬との関係が上手いき、馬が良い精神状態であったからだと思います。

北大は未経験者が多く、技術不足のままチーフになることも少なくありません。それなのにチーフになると馬のことばかりで自分の技術不足を忘れてしまったり、チーフだからあれもこれもやらなくてはとできないのに無理をして裏目に出たりすることがあります。自分の扶助が正しいか、馬が合わせてくれているだけではないか、なんとなくで運動していないか、形ばかりになっていないか、チーフを含め現役部員達には自分自身を省みることを忘れないようにして欲しいです。またその時その時、人にとって、馬にとって、部にとって最適な練習や目標があるはずです。それを良く考えてよりよい馬術部にしていってください。

調教報告らしくない内容で申し訳ありません。最後に、練習を見てくださった貫名さん、いつも貴重な意見をくださった先輩方、後輩、そしてドンパ、本当にありがとうございました。毎日嫌な顔をしないで長い時間一緒に運動してくれたジーもありがとうね。ながく北大で活躍できるように拗ねないで頑張るんだよ。

◆北創号（スペリオール）◆



セン サラ 黒鹿毛
平成13年4月9日生
北海道静内郡静内町産
父 サクラローレル
母 サクラヒーロー
平成18年6月24日入厩

出戸裕人

スぺの報告に関しては、まず時間に沿って書き、最後にまとめたものを書こうと思うので、時間のない方は最後のみお読みください。後になって読み返すと作文のようになってしまいましたが、ご了承ください。

スぺには昨年関わっていたこともあり、比較的早い段階から先をイメージしてトレーニングできた。乗り始めの状況と問題点は、

- ・トップラインがまだつながりきっていない。
- ・バランスが前にいきやすく、口もかたいので戻ってこない。
- ・トモの力が強いと、バランスが前にいくと肩に負担がかかり破行しやすい。

というものだった。なので、冬はトップの筋肉をつけるため、低伸運動を中心に運動を行い、バウンスもどんどん飛んで背中を中心に筋肉をつけることに徹した。また手綱をつめた運動も少しずつ取り入れ、歩度の伸縮などでつまった時にバランスを戻そうとしたが、まだまだ反抗は無くならなかった。

雪解けのころにはだいぶトップがしっかりしてきたが、120cmの経路を廻れるようなレベルにはなかった。冬のうちから障害はかなりやっていたが、土の上での障害には慣れていないようで、しばらくの間飛んだ後に頭を上げて走っていた。これは折り返しをつけて障害を行い、頭を上げたときに作用するようにすることで落ち着いて飛べるようになった。折り返しの効果を勘違いしている人がいるかもしれないので少し書いておくと、折り返しは馬が間違ったアクションを起こしたときに作用させるものであって、自分から捕らえにいったり頭を押さえ込むために使うものではない。きちんと使えればかなり有効な道具である。故に間違っただけで使えば馬へのダメージは大きいので、使用の際は注意しないとイケない。こうして先の問題のうち、1つは解決できた。ただ、やはりバランスはすんなりと戻らない状況が続いた。また、下級生が乗る

と走ってしまうこともあったが、これは円馬場で鑑上げなどの運動で、馬にいい意味で気を抜かせることや我慢して運動することで5月中旬以降はまったく走らなくなった。

半沢杯、新緑（5月）と100cmでのエントリーにしたが、走行としては満足できるものではなかった。原因は単純、戻っていないことだった。また、久々の試合ということもあり、更にベルが鳴るとよりテンションが上がっていたので、ずっと前がきつい状態だった。ホームではジムナスティックにおいて120cmや130cmも軽々飛ぶが、試合ではそんな片鱗はなかった。ちなみに、ジムナスティックなどの障害のトレーニングは基本的にゲネと一緒に、①②③を2週に1度ほど取り入れた。後はとことんバウンス（50cm程で7、8個並べたものを1日10飛越以内）をやった。

そんなこんなでモヤモヤとしている節、試合後に前述の小笠原さんに乗っていただき、状況は一変した。手綱を長めの位置で、これでもかという位動かしてもらった後に乗り変わると、不思議なことにバランスが戻ってきた。体を使いきれていなかったために戻れなかったと馬が教えてくれた。また、横運動が足りないためにトモが甘くなっていることも指摘された。

これを教訓に6月までのトレーニングを開始した。かなりのスピードで馬が進化してきていたが、1ヶ月では物足りないところもあった。

そして迎えた6月、ここで新たな問題が浮き彫りとなった。状態は今までより良かったが、フレンドリー・M級Dとレンガで1回ずつ止まった。元々注意力がある反面、物見も多い馬だが2日とも同じもので止まるとは思わなかった。後は満点だったが、馬の頭の中で怖いものは1度止まってもいいというのがあるようで、今後この部分が大きなネックとなることが明確だった。早急に対処しないといけない。ただ、状態はこの頃からどんどん良くなり、イチロー選手の言葉を借りれば、1週間前に良いと思っていたものが1週間後には物足りなくなる、という感じそのものだった。

状況が変わってきたのは7月。この頃からまず馬体に変化し、横幅が出てきてお尻が丸くなってきた。ホームでのトレーニングの成果が現れてきたようで、それに伴い馬の自信が格段に増え、物見をしても飛ぶ姿勢が見えてきた。またコントロールも簡単になり、下級生でも100cmなら危なげなく帰ってこられるようになった。道大会ではフレンドリーが120cmまで上がっていたが、まったく問題なく飛んでくれていて、先月とは別馬のようだった。また、この頃やっと準備馬場でも競技場でも落ち着いて運動できるようになった。馬が慣れたこともあるが、仕事がわかってきたことと自信がついたことの両方があると思う。

そして8月。ここで大きなターニングポイントを向かえる。北日まで1ヶ月を切った頃、オリンピック選手である岩谷さんと布施さんによるクリニックが3日間開かれ、参加することとなった。ここでスベは馬場、障害とも大絶賛され、今までの4年の調教過程が間違っていなかったことが証明された。また、このクリニックでは岩谷さんにしっかり見ていただき、ツースター馬場、障害ともにおいてバランスバックを中心にととてもいい感覚をつかむことができた。そして北日には後悔のない状態で連れて行くことができた。

北日には総合に登録した。2走も使っても良かったが、僕がゲネシスで出場することもあり、また、心にスベという逃げ道をつくりたくなかったこともあった。調教審査では岩谷さんクリニックの時の半分ほどの出来だったがそれでも56%ちょっとは点くものだから、やはり能力は素晴らしいものがある。ただ、耐久は散々。かなり馬のテンションを上げていったのだが、これが失敗だったように思う。本来なら止まるはずのない1番で拒止し、その後もまったく障害に集中することがないままあえなく5番で3反抗してしまった。もっと落ち着かせていくべきだったと反省している。野外だからといってテンションを上げすぎ、馬が自分を見失ってしまった。その後の馴致では、飛び方がわかりにくい障害3,4個は1度見せたが、後はほとんど見せることなく一通り飛べたことがそれを裏付けている。この馬は勢いで飛ぶタイプではないが、野外においてもそうだと思う。馴致期間を3日取ってもらったため、最終的には野外を流して帰ってこられるまでになったが、2年後はまた止まる可能性が高い。確実に権利を取るなら1ヶ月前以内に1度行けるといいが、財政的に現実味は薄いだろう。

本来ならばここで代替わりとなるが、馬の調教過程として8月か9月のM級Cが目標であったため（8月は北日と期間がかぶり出られなかったため）、あと2週間ほど乗せてもらうこととなった。北日で失敗はしたものの、引きずる様子もなく順調にトレーニングを消化でき、北日後しっかり休ませたこともあり期間は短かったが納得の状態に出場できた。この大会では新しい障害が5個も増えていたが、フレンドリーから止まることなくM級Cを満点で帰ってこられ、また、その前の下級生での110cmも安心して見ていられるという、非常に成長を感じられるものとなった。これで納得して代替わりできる、やっとなそう思えた。

そんな折、全日の3週間弱前に北翔が破行してしまった。今年は団体での権利を取っていたので、団体出場するにはこの馬の出場が不可欠であった。だが、スベには関係のないことで、2走に出場できる状態が間に合えば出る可能性がある、というこ

とにした。正直、9月の試合後から遊ばせていたこともあってどうなるかは分からなかったし、状態も落ちていたが、状態は思っていたよりもすんなり戻ってきた。また、全日までの期間はこれまでのトレーニングを拍車をつけずに行い、それを満たすくらいの脚反応があれば何とかなるのではないかと思った。最終的には何とかそういう状態になり、1度行った5段障害飛越では150cmまでノーサポートで完飛した。また、この馬には『ハマる』ところがあり、ふとした瞬間に突然バランスが戻りハミ受けがグッと良くなり、別馬のように収縮できる不思議な状態があり、北日までは月に2度位のペースだったが、この頃には5～10分乗ればそういう状態に持っていけるようになっていた。以上からフレンドリー次第では2走でも勝負できると思い、東京に連れて行くことに決めた。試合までには北翔の破行も良くなったが、ゲネ・スペとも2走に出て恥ずかしくないと思える状態だったため、非常に贅沢な話だがフレンドリーの結果で勝負できる方で出場しようと思い、結果スペでの出場となった。フレンドリーでは初めての場所に対する物見から1番障害の前で2度止まったが、後は障害を見ながら飛んでいて、水壕では1度止まったが、そのまま向かうと飛んでくれた。レインボー障害やレンガ障害など、スペが見そうな障害も怯まず飛んでいたのも、十分勝負になると思った。

が、やはり本番は甘くない。前日とはまったく違う空気にスペは飲み込まれてしまい、フレンドリーで飛んでいた1,2番で1反ずつ。2走目は3、5番で1反ずつ。結局すんなり飛んだのは4番トリプルだけであった。連続障害には自信があるようで、物が入っても止まらないが、あとは10m以上前から怯みっぱなしであった。ほろ苦い全日デビューとなったが、改めて思ったことは、この場においても能力では引けを取らないということだ。障害に対するバスキュールやスコープはトップレベルにあるのだから、あとはとにかく場馴れが必要だ。後日岩谷さんと話す機会があったのだが、準備馬場では目を見張るものがあるが、やはり競技における経験がまだまだ足りないと言われた。こういう点が新馬と呼ばれるところだろう。

以上のことから、これまでの問題点をまとめると

- A) 環境の変化に対応できない。
- B) 物見したときに止まる癖がついている。
- C) 競技における仕事を理解し切れていない。
- D) バランスバックを理解し切れていない(小さい回転では特に)。

が今の大きな問題だと思う。解決策としては

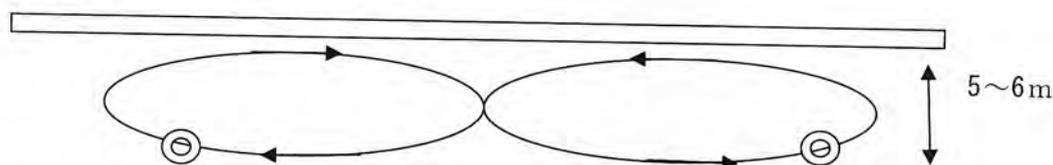
A、Bに関しては、ホームではある程度のことばやってあるので、色々な環境に連れて行くことが最も早い。北海道じゃ限界があるので1番手っ取り早いのが国体だと思うが、2、3年で全く直らない様なら離厩も1つの手だと思う。また、とりあえずは

2走に絞ったほうがいいかもしれない。これだけの能力を有しているのが北大としては非常にもったいないが、この状況が続けば考えないといけないだろう。また、Bに関して、新しい場所での馴致などでは1度見せずに、高さを下げるなどして新しいものでも飛ばなければならない、止まったら叱られる、という風にしないと克服は難しい様に思う。叱ることの注意は必要だが、それは今までの部報に書かれているのでよく勉強してほしい。

CもA、Bと似ているが、これはノーサポートで経路を廻り馬に学習させる時間をもっと増やせば、ある程度までは良くなると思う。チーフだけじゃなく下級生が乗ったときこそチャンスなので、リスクの少ない中で実践してほしい。

Dはホームでの調教がまだまだ足りていないので、1歩毎に刻むような駈歩が出来るように。具体的には・輪乗りの開閉・15mを5歩で、最後の3歩は余裕を持って行けるように。また、トレーニングの本質は違うが、8字を横にしたような図形で

ラチ



これを駈歩で行い、◎の位置でラチにぶつけるように脚で回転すると踏歩変換のトレーニングになるが、それに伴い内方後肢の踏ん張りも良くなるので、一層踏み込みが増す。腰への負担が大きいので注意しなければならないが、効果的だと思う。また、短所ばかり書いてしまったが、昨年以内山さんが書いている通り理解力があり、前の日にやったことを覚えているなど非常に記憶力の良いところもあるなど頭の良い馬であるので、そこは大事にしてほしい。最後に、今年はハミを5種類ほど試したが、ダブルジョイントが1番しっくりきたように思う。ドクターブリストルなどはこの馬には合うような気がする。

調教報告としてはこんなところだが、今年はかなり順調だった様に思う。理由として、ゲネにしてもそうだが、まずは健康に1年を過ごせたこと。それによって早い段階からシーズンの目標を決め、それに対し毎大会の目標を定め、またそれに対し毎週の目標を決めて3日毎のメニューを考える、といった計画性を持ってトレーニングできたことが大きな要因だと思う。状態はまだまだ安定はしていないが、能力では北日本を背負って当たり前というものを持っているので、今後のチーフにははっきりとした責任感を持ってやってほしい。オリンピック選手に「天才、インターナショナルな馬」とまで言わしめたスベの才能が大きな舞台で発揮されるのを楽しみにしています！

◆北柊号（サクラロイヤル）◆



セン サラ 栗毛
平成13年4月9日生
北海道静内郡静内町産
父 サクラローレル
母 サクラユスラウメ
平成18年6月24日入厩

海 道 磨 里

ロイヤルは村木姉から引き継ぎましたが、私には新馬を一人で調教する実力もなかったため、慶応大学OBの貫名さんに馬の調教をして頂きながらロイヤルに乗ることになりました。また、シーズンが始まってからはOBの高島兄にもお世話になり、ロイヤルに乗って頂いたり、人の基礎練習や障害を見て頂いたりしました。村木姉には定期的に馬場に来て頂き、経路走行等のアドバイスを頂きました。このように多くの方々のお力を借りて1年を過ごしてきたので、調教報告というより、ご指導下さった方々とどのようにロイヤルに乗ってきたかについて書かせて頂きたいと思えます。

ロイヤルを貫名さんに乗って頂くようになったのは、昨シーズンの村木姉の頃からです。当時のロイヤルは、騎手の扶助を理解しておらず、停止すらままならない状況でした。村木姉と貫名さんは脚と坐骨を丁寧に教えていき、それらが馬に定着してから口向きを改善していきました。それを踏まえて今シーズンは口向き作りを継続しました。ロイヤルは右ハミを特に嫌がり、右口にハミが当たると頭を上げていたので、左脚と右ハミの関係を作り右口を信頼させることに重点を置きました。

また、代替わりで決まったロイヤルと私の目標は、北日LAを帰ってくる、そして野外馴致を進めることでした。LAに関しては、昨シーズン村木姉がノーザンでLAを帰ってきていましたが、あえて同じ目標を設定したのは、私のようにそんなに上手くない人が乗っても、きちんと経路回りをすることでロイヤルを誰でも乗れる馬にしたかったという意味がありました。また野外馴致に関しては、昨年までほとんど手を着けておらず、総合に出場するためには早急に対応する必要がありました。

乗り替わってから春になるまでは徹底的に自分の練習をし、またシーズンに入っても多くの時間を人間の練習に費やした。内容はつま先を内に向けて踵を下げ、坐骨で乗ること、そして柔らかい拳で乗ることであった（このようなことは、本来チーフになる前に習得しなくてはいけないことだが、北大ではチーフになってから練習する傾

向にあるので今後改善が必要である)。当初私は騎座が安定しておらず、馬の上で正しい姿勢を維持することができていなかった。特に強く脚を使ったり、小さくて苦しい運動をしたりする時は坐骨のバランスが前後左右に傾いてしまっていた。拳も伏せ拳になっており体の節々を独立して使うことが出来ていなかった。

普段のFwは輪乗りの中で巻乗りやS字に手前を換え、輪乗りの開閉、前肢旋回などを行った。どの運動も内方脚を意識して、馬をどンドン歩かせるように心がけた。S字に手前を換えるときは新しい内方脚を意識して早めに騎手が姿勢の入れ替えることで、馬が反対姿勢のまま新しい手前に入らないようにした。また左手前から右手前に移行する時に右肩からなだれ込んでいけないように心がけた。私が乗っても、正しい姿勢で脚をしっかりと使っているとロイヤルがハミに頼ってきたのを感じたし、調教が進むにつれてその状態を維持している時間や回数が日々多くなるように思えた。貫名さんによって頂いていたおかげで、馬は徐々にではあるが頭を上げずにハミをくわえたまま歩度の詰め伸ばし、駢足等色々な運動ができるようになっていった。ロイヤルは左脚の反応が悪いためか、右手前で馬の腰が外へ逃げる癖があった。シーズン後半でその癖が多く出てしまったが、私の扶助が荒く、丁寧に左外方脚を使わなかったためかもしれない。また、拍車にばかり頼りすぎて、馬が蹴っぱねることが多くなってしまったことは、反省すべきことである。

障害練習では積極的にバウンスを取り入れた。これは馬の体をほぐし、またリズムよくとぶ感覚を身につけることを目的とした。障害へのアプローチ回転で内方手綱を使うと馬がよれたり、失速してしまうので、外方手綱で壁を作って誘導することで馬にパワーを溜めさせて強く踏み切ることを意識した。経路を回る前にもバウンスを行ってほぐした後に練習障害へと移るようにしていた。また、経路に慣れていなかったため、経路練習を多く行った。経路中に人の体がどンドン前のめりになっていく癖があったので、飛越する度に人の体を起こしてすぐに次の障害に向かえるように訓練した。同時に一定のペースで走行し、障害に真っ直ぐ向けることで馬に障害を認識させるようにした。

試合に関しては、LCから始めて、できるだけ早くLAに持っていくという計画だった。半澤杯ではクロスと90cmにエントリーした。シーズン最初の大会のためか、1日目は準備運動から馬が集中しておらず、準備運動から馬が手のうちから外れてコントロールできず、走られるという状況だった。もちろん経路も走られてしまい、散々な走行だった。2日目の準備運動は、騎手が素早く様々な運動を要求することで人に集中させるようにした。しかし、経路自体は前日と同じく走られっぱなしで人は手綱にぶら下がっているだけであった。新緑ではフレンドリーはまずまずだったが、LCにエントリーした土曜日に失敗を犯してしまった。私が下見をしている間に他馬が準備馬場で放馬してしまい、それを見たロイヤルがバタついてしまったのだ。下級

生をロイヤルに乗せて歩かせていたので、急いで乗り替わったものの、準備馬場の隅角に来た時にロイヤルが膠着してしまった。ロイヤルの四肢は震え、心臓の鼓動が脚で感じられるほどであった。そして前に出そうとした時に立ち上がり、そのまま後ろに倒れてしまった。倒れた場所が良かったため、幸い人馬ともに怪我はなかったが、馬がパニックになっていたため、棄権することにした。新しい環境に敏感に反応し、それが受け入れ難いものだと膠着するロイヤルのことを私はきちんと理解していなかった。ロイヤルが過去2年、準備馬場で膠着しており、一昨年も人馬転じていたにも関わらず、準備馬場にロイヤルを長く置いておいたことはチーフとして準備不足であり、軽率な行動であった（この膠着を見かねて、OBの高島さんが指導にいらしてくるようになった）。翌日は前日のことを踏まえ、出番のギリギリまでウッドチップにいるようにした。馬は前日の転倒を引きずることなく、ペース良く走行することができた。春自馬ではLAにエントリーしたが、土曜日に2反抗失権をしてしまった。障害を飛越した後、人が元に戻るのが遅くスムーズな左回転ができず花壇の障害で右に切られてしまった。さらにリエントリーしたが人が落ち着きを欠き、同じ花壇で反抗、さらに最後のリバプールで右に切られて落馬という最悪の結果を残してしまった。チーフであるにも関わらず、何のためにリエントリーするのか、そのためには何を修正しなければいけないかを考えずにいたことは恥ずべきことであり、チーフ失格であったといえる。そのような経緯からLAを必ず帰ってこさせるため、翌日は山本がエントリーすることになった。試合では花壇で再び一反したがLAを帰ってくることができた。今考えれば、これまでの大会でのロイヤルの走行は馬なりであり、馬が自分で判断して跳べるものは跳ぶ、跳べないものは切るという状態だった。そして、馬が怯んだときに人はアクションを起こせる状態ではなかったと痛感した。チーフの失敗続きの大会であったが、収穫もあった。それは、ロイヤルが花壇を見るといこと、そして右肩を張って障害を切るということを学んだことだ。以降は障害のアプローチで右肩を張らせないように注意を払った。左回転で右肩を張らせないようにするため、回転で右外方手綱をしっかり持つことで、右肩をおさめることができた。しかし、この方法では馬の頸が外を向いてしまうので、将来的には馬を真っ直ぐにして回転させなければならない。公認では再びLAにエントリーしたが、土曜日は出戸の後に乗ることになった。出戸の後に乗ると、馬は動いているのに拳が軽く、初めての感覚を味わった。この状態になるように準備運動をしていけばいいと学んだ。出戸からは、経路中にのめってくるが、これは馬が飛越後起きることに慣れていないためだと指摘された。翌日は自分だけで試合に出たが、前日の状態になるように準備運動も組み立てたせいか、経路の中でも馬はコントロールからあまり外れずに一定のペースで走行することができた。経路では飛越後にとにかく人の体を起こすことを意識した。人の体が起きれば馬も自然と起きてくるし、のめることが少なくなる。今までで一番いい走

行ができたように思う。北日でも下級生の柳田とともにLAにエントリーした。回転が悪く1反されてしまったものの、福島で初めて経路走行を行うことができた（一昨年は往路の馬運車内で暴れて試合は棄権した）。また、これまで下級生を乗せて試合に出たことが無かったので、これは誰でも乗れる馬への大きな一歩だったと思う。公認以降、目指すべき馬の状態が自分の中で明確になったため、大会でも自信をもって馬に乗れるようになった。秋自馬も次のシーズンに繋がるようにMDにエントリーした。馬の手ごたえを感じながら走行ができ、この頃には人が余裕をもって経路を回れるようになっていた。

野外馴致に関しては、ノーザンと畜大、福島で行った。人の経験不足から、出戸がやった後に私もやるということが多かった。ノーザンの大会毎に野外に行き、拾い跳びから初めて、最終的には出戸を乗せて、経路のように回ってくることができた。私も前半の林の中は初めから回ってくることができた。初めて行った畜大馴致でも、悪天候でコース走行こそできなかったが、拾い跳びでは馬が自信を持って跳んでいた。福島では私は拾い跳びを行い、出戸がコース走行までした。下級生に野外経験をさせてあげられたことも大きな収穫となった。ロイヤルは水を嫌がる傾向があるので、水に関しては後任のチーフである柳田にもどんどん馴致を行ってってもらいたい。

ここまで書いて、やはり自分はチーフになるべき實力を持たないと尽々感じました。シーズンの途中で大きな失敗を犯し、路頭に迷ったこともありましたが、北日前には馬の前進気勢を感じられるようになり、乗っていて絶対跳ぶ感覚が分かるようになりました（もっと早く体得しなければいけませんでしたが…）。人の下半身も安定してきて、飛越後すぐに体を起こして次に向かえるようになりました。そして最後は秋自馬でMDを帰ってくることができ、無事に一年を終えることができました。下級生に多くの経験をさせてあげられたのも、進歩だと思います。

最後に、私のロイヤルを持ちたいという熱意を信じて、チーフにしてくれた部員のみんな本当にありがとう。未熟な私を最後までご指導くださった皆様、本当にありがとうございました。色々な方々に支えられながら、この1年を過ごしてきました。これからロイヤルは益々成長して、全日を目指す馬になります。この1年が将来のロイヤルの糧となり、末永く北大で活躍する馬になることを願ってやみません。

ロイヤル、最後の1年をあなたと過ごせて本当に幸せでした。何回も口を引っ張って痛い思いをさせてごめんね。静かに乗っておいてくれればいいものを、とあなたは何度も思ったことでしょう。それでも、あなたの障害に対する前向きさと地力で乗り越えてくることができました。本当にありがとう。

ロイヤル、あなたはこれからも長く北大に残ることになると思います。これからは、1人でも多くの部員を背中に乗せて、夢に溢れる舞台を見せてあげてください。後輩達をよろしく頼みますよ。あなたのことを見守っています。

◆北兎号（サクラフォルツァ）◆



セン サラ 鹿毛
平成16年5月24日生
北海道静内郡静内町産
父 カリズマティック
母 サクラキャンドル
平成18年11月9日入厩

宮 本 亮

この馬には3年間携わってきました。今思うと、もう少し馬をよくしたかったし、そうすべきであったと感じています。卒部してからは、現役のわがままを聞きながら、そして時にどこからともなく飛んでくる横槍をかわしながら、しかしできるだけ馬に負荷をかけすぎず、馬の心に余裕を残しながら、調教を進めてきました。今はまだもの足りないところはあると思いますが、この馬はきっと大丈夫でしょう。確かな道標を与えてやりながら、1段飛ばしではなく、1段1段、焦らずに、一緒に昇って行ってほしいと思います。時に期待以上の成長をみせてくれることでしょう。

気がつくとき所謂“6年目”になりました。6年目にもなってこのように一方的に考えを発信できる場を与えてもらえることは有り難いことです。この場を借りて、ひとつ、書き留めておきたいと思います。以前、この部では「ビバホリデイ」という馬の一生を棒にふってしまいました。ビバホリデイは人の要求に応えられず、精神的にパンクし、馬繋台で暴れてしまい、腱を断裂し、競技馬としての能力を失いました。足を滑らせ、一方の引き手のみで繋がれながら暴れていたあの場面は、見るに耐えないものでした。しかし今、あの場にいた部員はもういません。きっとこの先も、人の油断を戒めるような事故は少なからず起こるでしょう。初心者が多いというこの部活の性格上、それは仕方のないことかもしれません。しかし願わくば、またあのようなつらい事故が起こらないよう、この部に残されてきた「知識」を大切に、些細なことでもできる限り部員で共有し、自分達の力の限界を受け止め、謙虚な気持ちで馬と向き合ってほしいと思います。

今、ビバホリデイのことは、毎年新しく入ってきた部員に周知されているようです。馬繋台にはトワインを介して馬を繋いでいます。最低限のことは維持されているようです。ただ、過去のことは風化していきます。ビバホリデイのことも、馬運車の事故も、エルグレイの痙攣も・・・。

この文章が、その風化を少しでも遅らせてくれることを願っています。

卒部して2年間、OBとしてこの部を見てきました。現役部員には楽しませてもらいました。はらはらもさせられました。苛立つことも多かったです。しかしすでにあふれたバケツに、さらに水を注ぎ込むようで、あまり無茶な要求はできず、当たり障りなく関わってきました。時にはあふれる水を受け止めてやる受け皿にでもなったでしょう。小さな、醤油を入れるくらいのこと……。それが良かったのか悪かったのかは分かりませんが。

部の雰囲気はかなり変わってきたようです。それが悪いとは言いません。その時代に合わせた柔軟性が求められてきます。自分達の代も、きつともっと上の方たちからすると、「なってない」代だったのでしょう。ただ変わってはいけないこともあります。特にこの部は周囲の支えなしには維持できません。現役のころはわからないものです。いつも気付かないところでこの部は支えられています。いざという時に当たり前のようにお世話になっている人もいます。いつもそばにあるもののありがたみにはなかなか気付きません。お世話になった人への感謝の言葉と、報告を、大切にしてほしいと思います。その一言が、多くの関係を円滑にしてくれることでしょう。

最後に、坂田は毎日、真面目にフォルツァを面倒見てくれました。きっと大変だったと思います。たまにわけのわからないことをしてくれましたが。それはそれで楽しかったです。入部してきた頃はてんやわんやでした。きっと最後の1年も、てんやわんやでしょう。

シーズン中、フォルツァの“主戦騎手”は山本でした。彼は結局最後まで部活を続けてくれました。泊まりで「これからどうするんだ」と布団越しに聞いていたのは何年前だったか……。フォルツァに乗った時には結構強く当たったこともありました。しかし努力あつての今の彼です。こっちが感謝しなければなりません。崖っぷちから、進級もしたようです。

現役時に確かな“かたち”を残せなかった自分を、2年間もフォルツァに乗せてくれて感謝しています。この馬には多くの貴重なことを教わりました。

◆北菓号（ログキャビン）◆



セン サラ 栗毛
平成8年3月8日生
アメリカ産
父 Woodman
母 Great Christine
平成21年9月15日入厩

山本 栄 輔

まずは、昨年入厩してきたばかりの北菓号(以下ログ)について簡潔に知ってもらうために、ログの自己紹介（他己紹介？）をしようと思う。

経歴

帯広畜産大学：柏華（6年間）→ノーザン：ログキャビン（1ヶ月）→北海道大学：
北菓

長所

- ・50戦ノーパンクの肢
- ・疲れ知らずのスタミナ
- ・意外とまじめ

短所

- ・飽きやすい
- ・すぐさぼる

短所

- ・飽きやすい
- ・すぐさぼる

嫌いなもの

- ・スプレー
- ・ビニール
- ・体温計
- ・リンゴ
- ・他の馬

次に、ログの北大名の由来について知っておいて欲しい。ログが畜大時代に柏華という名前であったことから、畜大で咲いた華に北大で実（菓）をつけようと思い、北菓という名前をつけた。決して全日学総合優勝馬をパクったわけでも、北菓楼の宣伝でもない。

上記のように、一癖も二癖もあるログが北大で生き残るにはどうすればいいかを一

年間考えていた。簡単に書いているが、畜大で失敗したログが、北大でも失敗したら肉になるだろうというプレッシャーは結構重かった。

結論から言うと、ログは競技に使うには難しい（一癖も二癖もある）が、練習ではその能力を存分に発揮してくれることがわかった。これから北大で活躍してくれるであろうログについて、一年間乗っていて気づいた点を以下にまとめる。

まず気をつけるべき点として、本気になったら下級生は乗れないということに注意して欲しい。上級生はしっかりと動かして練習する必要があるが、そのあとに下級生を乗せると暴走することがある。また、何の前触れもなく突然暴走することがあるが（原因は天候やストレスなど）そんな時は誰が乗ってもどうすることもできないので、そうそうに切り上げるか、丸馬場に突っ込むかした方がいいと思う。その前進氣勢を利用して障害の練習をするのも手だが、やらせる人間は選んで欲しい。たとえ、暴走しても次の日にはけろっとしているので、全く気にする必要はない。

また、飽きやすい・さぼりやすいという性格を障害に対しては出さないように注意すること。それが出てしまうと、障害に対して失速するようになり、非常に乗りにくくなる。そうならないために気をつけることとしては、同じ障害を二日続けて飛ばないようにすること、障害練習はパッとやってパッと終わることである。障害に対して前向きな状態であれば、北大では110cm、ノーザンでは100cmの経路を難なく回ってることが出来る。あと、高い障害を必要以上に飛ばされるのは嫌なようなので、高い障害は馬をリフレッシュさせる程度にしておいた方がいいと思う。ただ、体力もあって、コンビネーションに入れば絶対飛ぶので、上記のことにさえ気をつければ、どんどん練習に使っていい。

逆に、飽きやすい・さぼりやすいという性格をうまく利用することもできる。さぼっているログは安全に下級生を乗せることができるため、敢えて飽きやすい状況を作って練習させればいい。私の時には、丸馬場はさぼってもいい場所にして、よく下級生を乗せていた。

あと、はみもずっと同じものを使っていると飽きてくるので、たまに変えるか、左右逆にすることで、よくくわえるようになる。

反動のでかさ（オリンピック選手の岩谷さんも絶句するほど）にも気を配ってあげた方がいい。下級生を乗せる時には、ネクストストレッチかサイドレーンをつけ、頭の下がった状態で練習させた方が、馬のためにも人のためにもいいと思う。

また、反動がでかいことで鞍傷ができやすいので、練習には鞍傷防止用ゼッケンを利用して、鞍傷防止用ゲルパッドを使用してもいいと思う。

わがままで、人を舐めやすい点にも注意が必要である。下にいる時に舐められていては、乗っても絶対うまいかない。私もわがままされ放題の冬場は全く動かすことが出来なかった。

それが変わったのは、春先に馬運車馴致をしていたときのことである。その時、馬運車にどうしても乗らなかったログをA埒で囲って、追い鞭で追いたくって乗せたのだが、そのことから人間の要求に対して服従しなければいけないことを学んだようだ。それ以降、わがままはなくなり、騎乗時もリスペクトされるようになった。このように、ダメなことはダメだとしっかり教え、主従関係を作っておくことも必要である。

もちろんそれだけでなく、アメとムチのアメとして鬼のようにかわいがっておくことも重要である。私はセイコーマートとみた北23条店で朝食とともにセイコーマートバナナを買うのが日課になっていた。

競技のことについても書いておくと、野外は飛ぶけど余力は飛ばないといった状態で、Mクラスの障害を対外試合で完飛するには野外の状態にしなければいけない。野外の状態にしたら何でも飛ぶが、とても危険なのであまりオススメはないし、そもそも下級生を試合で使えなくなってしまう。私のときは試合の一日目に下級生を乗せ、二日目に自分で中障害に使っていたりしたが、練習馬として使うのであれば試合は100cmにまでしておくのがいいと思う。

野外は練習では何でも飛ぶのでいいが、耐久の試合になったら止まる気がしない（太ももが裂けるかと思った）ので、相当の覚悟がない限り使わない方がいい。しかし、今後年齢を重ねていくうちに、体力の衰えとともに落ち着きを手にして、乗りやすくなるかもしれない。

最後に、いろいろと相談に乗って下さった畜大生の皆様ありがとうございました。ログはこれからも北大で元気にやっていくと思います。ログをかわいがってくれた部員のみんなもありがとうございます。ひねくれてもバナナをあげたら直るから、いっぱいかわいがってあげてね。

◆北焔号（マリオ）◆



セン サラ 黒鹿毛
平成6年3月25日生
北海道白老郡白老町産
父 トウショウマリオ
母 アンバーエルン
平成21年10月31日入厩

平芳 悠人・出戸 裕人

さすがに3頭目ともなると読む方も飽きると思うので、特徴と注意点だけにしようと思う。

- ・今の北大において最も調教が進んでいる馬。FWならば低伸運動からハーフパス、反対駢歩、踏歩変換を流れではなく1歩1歩のリズムの中でできる。
- ・バランスも刻む駢歩ができるくらいまで戻ってくる。
- ・拳の握りだけで十分効くほど口が柔らかい。
- ・物見も少なく、ホットなところがあるため、自分から向かって飛んでいく前進氣勢にあふれている。

というスーパーホースである。ただ、足元が弱く、実際5月の大会後～7月半ばまで破行のためほとんど運動できなかった。今年は僕自身この馬で2走に出場する可能性がほとんどなかったため、下級生を乗せることもあったのだが、これがまずかったように思う。上に書いたようにホットなところがあるため、走ってしまった時の肢への負荷が大きく、また破行後も乗ったり（ほとんど低伸のみだが）乗らなかつたりという状態だったため、破行が長引いてしまった。今後のチーフにはこの点を本当に注意してもらいたい。また、扶助が敏感すぎるが故に下級生が乗った後は大きく影響が出るので、乗せるときは必ず、後で自分でまとめられる範囲内の運動に留めておくこと。そうしないとすぐに状態が壊れるだろう。

マリオに関してはこんなところだが、7月の途中からは1年目の平芳に乗り換わったため、ここからは平芳に渡そうと思う。

ここからは1年目の平芳が書かせていただきます。

調教報告とは言うものの、正直言って僕は調教と言えるようなことは一切やっておりませんので、約3ヶ月乗らせていただいた感想のようなものになってしまうと思いますが、許していただきたいと思います。

僕がマリオに乗せていただくようになったときには跛行がひどく、フラットワークでは足に負担をかけないように、馬の体をほぐすことと最低限の筋肉を落とさないことを意識して一通りの運動（低伸から収縮運動）を行っていました。また、ごく稀に跳ぶ障害も高さは1mまでで、回数も最小限にとどめていました。これは、乗り換わってから全日まで同様です。

僕が出させていただいた北日と全日では、落下がかさんだり、二反で失権するなど、決して良いと言えるような走行はできませんでした。馬を起こしきれていない、回転での推進不足、また、それに伴う弾発や前進氣勢の不足が主な原因です。

マリオは上記にある出戸兄の評価の通り調教が大変進んでいます。人が正しく乗っていれば自分の要求を的確に行ってくれる馬ですが、逆に正しく乗ることができなければ乗りこなすことはできません。動きは非常に良く調教も進んでいるため、弾発のある動きとはどういうものか、正しいハミ受けとはどういうものか、障害へのアプローチの仕方など大変多くのことを学ぶことができます。

今後マリオに乗る機会を得た方は、その貴重な機会を無駄にしないよう馬からできるだけ多くのことを学んでもらいたいと思います。ただし、最低限のバランスができていなければ、すぐに馬を壊すことになってしまうので、その点は注意していただきたいです。

最後に、1年目の僕にマリオに乗せていただく機会を与えていただいた方々にお礼を言いたいと思います。本当にありがとうございました。

入厩報告

◆チェリーアドミラル号◆



セン サラ 芦毛
1993年4月22日生
様似郡様似町川辺牧場産
父 サクラユタカオー
母 チェリーユミコ
平成22年8月1日入厩

柳田 睦 仁

チェリーアドミラル号はマオイホースパークから入厩しました、17歳のセン馬です。おっとりしたおとなしい性格をしています。畜大OBの武笠さんによって調教された馬で、障害飛越能力はすばらしいものを持っており道大会ではMC（120cm）クラスを完走しているので来年の北日では期待できると思います。

北海道大学水産学部馬術部

部長 千田裕洋

始めまして、北海道大学水産学部馬術部の主将を務めさせて頂いております、3年千田裕洋です。私達は現在、院生4人、4年生2人、3年生8人、2年生14人の計28人で活動しております。函館競馬場乗馬センターの繁養馬をお借りして、JRA馬術職員の先生4名の御厚意ある親切丁寧な指導の元、日々精進しております。私達は他の大学馬術と異なり、JRAが管理する乗馬をお借りしているため、学生主体で馬の管理をする上で伴う責任を感じる機会が多くありません。責任感から生まれる達成感や充実感を得る機会がない不利な一面もあります。また、自馬を所有していないという理由から、大会に出場する機会も少なく、大会経験も中々持てません。普段の練習成果を発揮する大会に中々出場できないため、練習に対するモチベーションを保つことも困難になりがちです。ですが、私達は毎日JRAのプロの職員方が調教した馬に乗ることができ、さらに、その職員方が直接指導して下さることもあり、他大学の馬術部方が羨ましがるほど恵まれた環境で練習できる有利な一面もあります。部員一人一人の努力次第では、質の高い充実した練習を通して、大会経験が少ない不利な面もカバーすることが出来るはずです。プロの職員方に教わっているのだという強い自信を持って練習に励んでいます。また、去年は水産学部馬術部が、第16回岩手大学招待学生馬術大会で初優勝し、伊藤海先輩が、第82回北日本学生馬術選手権大会の準決勝に進むなど、技術面で他大学と比べて遜色がないと思います。本学馬術部とは半澤杯や北日本学生馬術選手権大会の予選など直接の関わりを持つ機会が少ないため、同じ北海道大学の馬術部として、より一層交流を深めることが出来ればと考えております。本学馬術部と水産学部馬術部の両馬術部の更なる発展と向上を心よりお祈り申し上げ、北海道大学水産学部馬術部の活動報告とさせて頂きます。

卒部にあたって

● 山本 栄 輔 (獣医・主将)

体験乗馬のときに、宮本兄から「やめた方がいいよ。」と言われてから早4年、北大馬術部に入って本当によかったです。人にも馬にも恵まれた4年間で、入部当初からは想像できないくらい成長することが出来ました。

私たちの学年は目の上のたんこぶであり、目の下のたんこぶでもありましたが、函館の天狗に、ライトフライ級の出戸に、シフォン好きの綾部に、天才一家の岩野に、男勝りな海道と、ドンパには恵まれたと思います。それだけでなく、途中で辞めざるを得なかったドンパからも多くのことを学ぶことができ、彼らがいたからこそ今があると思います。

また、個人的に札幌競馬場の乗馬センターでもとてもお世話になりました。いつまでもたってもうまくならない中、最後までご指導頂いた歌川先生、米谷先生ありがとうございました。

この場を借りて、卒部後に後輩の瀧澤が亡くなったことについても触れさせていただきたいと思います。突然のことで嘘だろと思いましたが、現実でした。これからの成長を期待していただけない、本当に残念でなりません。泊まりで一緒に飲んだこと、危なっかしい運転を隣で見守っていたこと、騎乗時にいつもメガネが落ちそうだったこと、ネイチャーをかわいがっていたこと、自転車のパンクを直してもらったことを今でも思い出します。もうこの世にいないということが信じられませんが、瀧澤のご冥福をお祈りします。

馬術部の四年間では、たくさんの人に出会いました。私の失礼に目をつぶって許してくれたOBの方々や、見ず知らずの学生にも関わらず手を差し伸べて下さった馬関係者の皆様から、工事現場のおじちゃんや馬を見に来たおばあちゃんまでたくさんの人に助けられました。また、北大の馬だけでなく、たくさんの馬に練習でお世話になりました。

四年間で出会った全ての人、そして全ての馬に感謝します。本当にありがとうございました。



- 山本さんのいる飲み会は恐怖でしたが、いなくなると物足りないです。
- また、シンコウに会いに行きましょう。
- 山本兄は偉大でした。
- また宝来に連れて行って下さい。

● 綾部美晴（理・主務）

「馬術部って給料のもらえない会社みたい」他の部員とそう話したことがあります。活動時間の長さに加え、バイト等によって金銭面でも部を運営し、馬のために部のためになることを一番に考えて1人1人が常に責任を持った行動を求められます。本当に部活をしているというより仕事をしているようでした。しかし給料がもらえていない訳ではありませんでした。辛いことも沢山ありましたが、それらは全て自分をたくましく成長させてくれ、馬術部をやり通したことは、今後大概のことはどうにかできるだろうという自信に繋がっています。もちろん楽しい時間も沢山ありましたし、何より、馬達と過ごした密な時間は他では決して味わえないかけがえのないものでした。3年目のフォルツァの馬責も、4年目のジーニャスのチーフも、とてもとても充実していて幸せでした。馬術部と出会って本当に良かったと思います。今馬術部にいる人達も、これから馬術部に会う人達も、「馬術部に入ってよかった」そう笑いながら卒部できるような部活にしていってください。



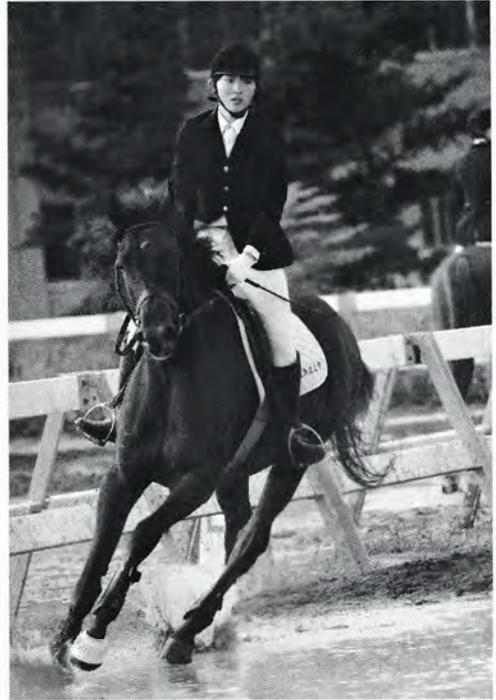
- 存在が好きでした。
- いつもお菓子で癒されました。
- いつも自分たちを見守って下さい、ありがとうございました。
- おもしろくなくてすみません。

● 岩野公美(獣医)

卒部から半年が経ち、馬と過ごした毎日をととても恋しく思っています。たくさんの方に支えられた馬術部生活でした。感謝しています。馬たちと後輩の馬術部生活が充実したものになるように願っています。

本当にお世話になりました。

- 永遠のお姉さん。
- お姉さんのオーラがあこがれです。
- 岩野姉にはいつも励まされました。
- 乗っているときの姿、美しかったです。



● 海道磨里(獣医・馬匹)

本当にあっという間の3年半でした。卒部して充実感でいっぱいなのに、まだまだ馬と一緒にいたいと強く思ってしまう。それだけこの部にいて馬が好きになりました。

現役の頃は技術的なこと、馬のこと、部内での自分の立場・居場所のこと、部の運営のこと、後輩のこと…色々なことで悩みました。正直、悩みのない日は一日もなかったように思います。でも、その度にドンパが、先輩が、後輩が、そして馬が私を励ましてくれました。周りの人の言葉にどれだけ救われたことか。一人ではこの部活は続けられなかったと思います。馬に恵まれ、人に恵まれ毎日たくさん笑いました。心から感謝しています。ありがとうございました。

後輩に伝えたいことは、いま現役でいることを十分に楽しんでほしいということ。卒部すれば毎日当たり前に馬に触れ合うことは難しくなります。現役であるあなた達は、毎日馬に触れ合うことで馬と「線」で繋がっているのです。たとえ今後、乗馬ク



ラブに通ったとしても、馬に乗るだけで馬体管理などをするわけではありません。つまり卒部してしまっただけでは馬と「点」でしか繋がれないのです。だから、今を、人生の中でたった4年間しかないこの貴重な時間を、仲間とともに思う存分過ごして下さい。私は怖い先輩だったと思います。あなた達のことをよく怒っていましたね。でも、あなた達が嫌いだから怒っていたのではないのですよ。馬を扱うことに責任を持ち、体育会の部を運営していくことを教えたかったのです。あなた達は馬がいなくても生きていけます。けれど、馬たちはあなた達なしでは生きてはいけません。忘れないでください、彼らは毎日手入れをして作業をして餌をやらないと生きられないのです。だから、馬を愛して大切にやって下さい。彼らを宜しく願いますね。結局最後までお説教をしてしまったね。ごめんね。

これからも脈々と受け継がれてきた伝統のある馬術部を大切にしていって下さい。

—THE ANEKI。

—厳しさと優しさをありがとうございました。

—海道姉の厳しさが懐かしいです。

—合宿での出来事、ずっと忘れません。

●出戸裕人

何度も辞めようと思っていた馬術部での生活も気づけば卒部して以後も馬の世界で生きていこうと思っている今日この頃…。

この先の事は今は分からないが、ここで得たものは今後必ず役に立つものになると思う。こんな気持ちで卒部することができるようにしてくれた周りの方々に本当に感謝したい。みんな、ありがとう！

—馬術会のイチロー。

—馬術の鬼です。

—カリスマでした。

—夜襲わないでください。



● 岡崎 遼太郎（水産・飼糧）

わずか一年半足らずで引退することにはなりましたが、このように先輩方と名前を連ねることができ光栄に思います。

私の目標は入部当初から全日への出場でしたので、いかにこの一年半という時間を有効にうまくなるかということが、日々の課題でした。大学に入る以前は馬という概念が無いまま過ごしてきた身ですので、全日という舞台を少々甘く見ていたことは否めませんが、それでも何か漠然としたものに猪突猛進した時間は気持ちの良いものでした。

結果を言ってしまうえば、皆さんもご存じのように全日への出場は叶いませんでした。なぜなら私が「下手くそ」だったからです。この事実はこれからもこの先も変え難い事実なのですが、函館で一歩ずつ前進できるように、今は競馬場の先生方のお力添えをいただきながら精進するのみだと思っています。

北水馬術部では本学のように担当馬と切磋琢磨したり、馬術部の醍醐味を味わうことは難しい環境にありますが、皆それぞれのペースで無理なく馬術を楽しんでいます。これからは本学と連絡を取り合って交流の場を設けることで、技術以外の部分でも高めあっていきたいと考えています。

私の全日への熱意は未だに、衰えるどころか、より一層熱いものになっています。これからは全日選手権を目指し、質の高い選手になれるよう、部員と共に頑張っていきたいと思います。

——「岡崎」とかけて「馬術」とときます、その心は「キザ(騎座)」です。

——コンタクトは入るようになりましたか。

——イケメン。

——思い出さないよ（ウソ）。



部員紹介

4年目



☆坂田 直子（主務）

- ・ウイルスが進入してますよ！！
- ・窓口を代えました。
- ・What's happened!?



☆速水 秋（主将）

- ・隣の席の人ですか？
- ・僕らの女神様 2010年。
- ・愛しています。

3年目



左上から 宮田・加藤
山川・江口・西村
柳田

☆江口 遼太 (副将)

背中で語れる男になりたいです。

- ・頼りがいがあります。
- ・おんぶの法則はいいですよ。
- ・松田優作

☆加藤 亜也奈（会計）

- ・ダイビングキック加藤
- ・機嫌の波が激しい気がします。
- ・トロによろしくね（笑）

☆西村 英里（馬匹）

マイペースは変えません（^^）v

- ・意外にやる。
- ・背が高いよ…。
- ・今後について、話しましょう。

☆宮田 昇太（後援会）

大切な人ができました…夏

- ・最近変わったね…。
- ・ピグレットみたい。
- ・一個につき500円

☆柳田 睦仁（北日幹事）

腐ったりんごにはなりません。

- ・おんぶの法則使ってみたら？
- ・とてつもなく残念な人。
- ・ガラスのハートの持ち主。勝負ドコロでいつも緊張しすぎている。顔（笑）
- ・ク・リ・ス・マスなんて、だ・い・きらいさー♪

☆山川 晃平（副務・蹄鉄）

俺はあいつらには負けてない。でも俺は幸せにはなれない

- ・浮気されてるよ。
- ・モノマネされてるよ。
- ・馬鹿にされてるよ。

2年目



1 段目 左から和田・澤田・松尾・西野

2 段目 高居・品川

3 段目 平芳・祖父江

☆澤田 恵梨子 (ビデオ)

一日一善

- ・ 記念日はクリスマス①。
- ・ 板ばさみ。
- ・ 勝利の女神

☆品川 雅彦 (ホームページ)

今後について、話しましょう。

- ・ 財布は持って行きましょう。
- ・ 今年のできはいいですよ。
- ・ アラサーの☆

☆祖父江 友芳（馬備）

大手で、すいません。

- ・ブーツジャックありがとうございます。
- ・研究室行かなくていいんですか？
- ・大手

☆高居 名菜（大会関係）

お寿司食べに行きたいです。

- ・なんか頑張ってるねー（^^）/。
- ・はんなり。
- ・お前は幸せになれ。

☆西野 綾乃（薬品）

- ・下級生に仕事をとられてるイメージ。
- ・妥協って必要だよ。
- ・あきらめません、勝つまでは。

☆平芳 悠人（飼糧）

文武両道を目指します。

- ・記念日はクリスマス②
- ・代返お疲れ様。
- ・あとは函館に行くだけ。

☆松尾 慧（作業）

すいません、ノーザンです。

- ・坊主の☆
- ・髪伸びるといいね。
- ・坊ちゃん。

☆和田 茜（衛生）

- ・いろいろごめん。お前も幸せになれ。
- ・二週間に一回は来すぎじゃない？
- ・チェリーありがとうね。

